

# 目次

---

## CONTENTS

1. 巻頭言	教授 尾 辻 豊	1
2. 同門会 ご挨拶	同門会会長 太 崎 博 美	3
	同門会名誉会長 福 本 晃 雄	4
	同門会名誉顧問 黒 岩 昭 夫	5
	同門会顧問 中 島 康 秀	6
3. 医局一年の歩み	医局長 園 田 信 成	7
新任・昇任スタッフの自己紹介		
	循環器内科、腎臓内科 助教 林 篤 志	10
	救急科 助教 岩 瀧 麻 衣	10
	腎センター 助教 中 野 陽 子	11
	循環器内科、腎臓内科 助教 坂 東 健一郎	11
	循環器内科、腎臓内科 助教 穴 井 玲 央	12
4. 産業医科大学若松病院からの新任挨拶		
	循環器内科・腎臓内科診療科長・准教授 春 木 伸 彦	13
	循環器内科・腎臓内科 助教 穴 井 玲 央	13
5. 新入教室員自己紹介		
	赤 司 純、宮 本 太 郎、山 岸 靖 宜、仲 悠太郎	14
6. 新研修医便り		
	佐 藤 由 季、下 山 尊 弘、柳 生 圭士郎	16
	学外研修報告会と実技講習会 荒 木 優	18
7. 外来・病棟この一年		
外 来	平成 27 年度 外来医長 中 野 陽 子	19
病 棟	平成 27 年度 病棟医長 村 岡 秀 崇	20
8. 学生教育について	尾 辻 豊	22
9. 研究室一年の歩み（平成 27 年度）		
1. 循環器研究室	心臓超音波グループ 尾 上 武 志	24
	不整脈グループ 萩ノ沢 泰 司	25
	心血管インターベンショングループ 村 岡 秀 崇	26
2. 腎臓研究室	腎臓グループ 田 村 雅 仁	27
3. 学位取得者	檜 山 国 宣	29
	松 本 美 香	30
	永 田 泰 史	31
4. リサーチカンファレンス	尾 辻 豊	32
10. 訪問研究員便り	小保方 優、Li-Tan Yang	33
11. OB 会員の先生からの便り	第 2 内科学教室 OB の先生方	35
12. 教室職員紹介		39

13. 関連施設便り			
学内	産業医科大学医学部 不整脈先端治療学	講師 河野 律子	40
	産業医科大学病院 腎センター 部長・診療教授	田村 雅仁	41
	産業医科大学病院 臨床検査・輸血部 部長・診療教授	竹内 正明	42
	産業医科大学病院 集中治療部	講師 二瓶 俊一	43
		助教 原山 信也	
	産業医科大学病院 救急科	助教 岩瀧 麻衣	44
	産業医科大学若松病院循環器内科・腎臓内科 診療科長・准教授	春木 伸彦	45
	産業生態科学研究所 職業性中毒学	講師 五十嵐 友紀	46
学外	NTT 西日本九州健康管理センタ		47
	福岡労働衛生研究所		48
	東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海) 健康管理センター		49
	新日鐵住金和歌山製鐵所安全健康室		50
	東京ガス株式会社安全健康・福利室		51
	九州健康総合センター		52
	西日本産業衛生会		53
	独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院		54
	独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院門司メディカルセンター		55
	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院		56
	北九州市立八幡病院		57
	社会保険直方病院		58
	萩原中央病院		59
	地方独立行政法人芦屋中央病院		60
14. 医局関連行事			61
	医生ヶ丘循環器病診連携会	福田 祥大	61
	産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会	園田 信成, 田村 雅仁	62
	産業医科大学若松病院循環器・腎臓病カンファレンス	春木 伸彦	64
	大学院講義 (平成 27 年度)		66
	内科合同クリニカルカンファレンス		71
	教室写真集		72
15. 2015 年度業績集 (2015 年 4 月～ 2016 年 3 月)			75
16. あとがき		尾辻 豊	130



# 1. 巻 頭 言



## マネージメントが増えました、若松病院で透析を始めました、病院建替えの検討が始まりました。

第2内科学教授 尾 辻 豊

2016年度の御挨拶を申し上げます。教育に関して産業医科大学は国家試験の成績が芳しくなく、111人受験し101人合格という結果となりました。全国80医学部の中では標準的な成績ですが、産業医大の目標には届かなかった結果です。医学部長・教務部長を中心に教育を大きく改革させる動きが始まると思います。院内のマネージメントが増えてきて、会議がとにかく多いです。医療安全に関する会議は内容が濃く、90分ぐらいですが終わった時はヘトヘトです。時代の要請で完璧を期さないといけなくなり、今後の医療活動は全てのメディカルスタッフにとって非常に厳しくなると思います。病院の建て替えも見据えて診療の効率化が大きな課題になっています。やるべきことは多く、どこから手をつければ？という感じです。このような中で今年は若松病院の外来透析が始まりました。長らく「侵襲的診療のない循環器・透析のない腎臓」という課題をどうやって克服すべきか？悩んでおりましたが、ようやく片一方の問題はクリアしました。以前から循環器グループの医師全員に透析を行えるようになって欲しいと思っておりましたので、若手医師に人気の施設となると思います。

腎臓グループは医生ヶ丘の大学病院や若松病院で診療に頑張っているのは言うまでもありませんが、2015年は日本透析医学会総会で4題、日本腎臓学会総会で4題、米国腎臓学会で1題など、多数の学会発表を行いました。日本腹膜透析医学会で久間先生がYIA賞、福岡県医学会総会で眞田先生がポスター優秀賞を受賞されました。中野先生が腎臓専門医、中俣先生が透析専門医を取得し、久間先生はWNT10A発現線維芽細胞と急性間質性腎炎との関連についての論文をPLoS Oneに発表、松本先生が新しい腹膜透析液の主成分であるicodextrinの生体適合性についての論文をLife Sciencesに発表し、それぞれ医学博士となりました。昨年は腎臓グループへの新加入も3名あり、ますますグループに活気が出てきています。臨床におきましても、腎生検件数が116件、新規透析導入数81件、バスキュラーアクセス関連手術数101件、シャント造影・PTA数98件と、過去最多レベルの状況が続いています。また、保存期腎不全患者を対象に腎臓病教室を行っています。医師に加えて看護師、栄養士などのチームで、患者さんの腎不全リスクに立ち向かっています。不整脈グループも躍進を続けています。3名の不整脈専門医を中心として、デバイス治療は例年同様、盛んに行っています(135件)。アブレーションも全ての頻拍性不整脈について症例数も伸びて過去最多の93件となり、良い治療成績を収めています。学術面でも多くの国際多施設共同研究への参加や単独臨床研究の論文発表を行い、エビデンスの構築に寄与すると共に、デバイス患者の社会復帰への取り組みや、産業医学実務研修センターとの共同研究を通じて、大学の使命にも貢献しています。心カテグループでは、心臓カテーテル検査、カテーテル治療の年間件数も順調に伸びています。緊急治療や下肢血管の治療件数がさらに増加しており、総カテーテ

---

ル治療数は278例で昨年に引き続き過去最高を記録しました。治療成績もとても良好です。特にプレッシャーワイヤーや血管内イメージングガイドの治療を先進的に行っており、11月にはOCT（血管内イメージング）のワークショップを開催し当院に全国から若手医師が沢山訪れました。全国の主要施設にも冠動脈イメージングの指導のため訪問しており、日本心血管インターベンション治療学会研修施設として中心的な役割を担っています。心臓リハビリテーションも順調に行っています。また研究面においても、引き続き多くの多施設共同研究に代表施設として参加しています。今年度はOCTで行った研究(OPINION)の結果がインターベンション分野ではヨーロッパ最大の学会であるEuroPCR(本年5月開催)におけるLate breaking trialとして報告されました。ACCやESC等の国際学会や日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション治療学会でも多く発表を行いました。今年4月からはスタッフが一人増員し、大学院生も計3名となりさらにグループの活気が出てきています。心エコーグループでは、通常のエコー検査だけでなく、負荷エコーや経食道エコーを幅広く活用し、弁膜症や心不全の診断・治療に積極的に取り組んでいます。また、日本循環器学会総会や海外学会で多数の学会発表を行うなど、臨床研究に精力的に取り組んでいます。永田先生が3次元エコーによるストレイン解析が大動脈弁狭窄症の予後予測に有用であることを論文として発表し医学博士となりました。これまでエコーグループを率いてこられた竹内先生が教室を移動されましたが、新たに尾上先生が大学院生としてグループに加わり、少し若くなったメンバーで元気よく診療と研究に取り組んでいます。若松病院循環器内科・腎臓内科ですが、三階病棟の一角を人工透析室に改築し、本年5月より外来血液透析を開始しました。10床のベッドと小規模ではありますが、侵襲的検査・治療ができないという今までの弱点を一つクリアできる事になります。また心大血管リハビリテーションと睡眠時無呼吸診療に関しても着実に数字を伸ばしています。特に心リハに関しては開設当初から数えて延べ8700件を超え県内有数の心リハ施設に成長しています。睡眠時無呼吸のポリソムノグラフィー検査に関しては、昨年夏からは月10件ペースで行っており、それにつれてCPAP導入症例も着実に増加しています。また若松近隣の開業医の先生方からの御紹介も増えてきました。

2014年年4月から副院長(体制整備・人材育成担当)を拝命しており、この仕事がドンドン増えてきます。前述の医療安全もしかり、産業医大病院にどうやって優秀な研修医にたくさん集まってもらえるか?も大きな課題です。今年度に向けて昨年行われたマッチングではフルマッチしたのですが、卒業・国試で3名の研修医枠が欠員となりました。不可抗力に近いですが、改善するところがないか?考えています。少子高齢化で税収が減る中ですが、病院建替え(2020年ぐらいを想定)のためにも頑張らねばなりません。開学当初、有田焼きの赤煉瓦を使って病院建築されたそうですが、大震災復興・東京オリンピックに向けて建築需要・価格がうなぎ上りの中での建て替えとならざるを得ません。やるべきことは山積していますが、やれることを一つずつして行くつもりです。とは言っても、人生を楽しむことも大事で、健康管理が最重要です。これを兼ねて卓球をけっこうやっています。昨年は40回練習しました。1回2時間弱です。今年度は50回が目標です。学生とも年間10回程度卓球をして、レギュラークラスにはなかなか勝てませんが、私に勝つことを目指している学生もいます。石田卓球という名門のところでコーチに習っていますが、すごくゆっくりとですが上達するようになってきます。あるいは錯覚かもしれませんが、今後ベストを尽くす所存ですので、同門の皆さまからのいっそうのご支援・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 2. 同門会ご挨拶



### 庭の引っ越し

産業医科大学第2内科同門会 会長

北九州市立八幡病院 副院長

太崎 博美

ちょうどこの原稿が同門会誌に掲載される頃は、木々に緑が濃くなり、夏本番間近になっていると思います。私の住んでいる団地も街路樹や生け垣が夏の到来を告げてくれます。隣近所の庭がきれいなのは大歓迎なのですが、この時期の我が家の庭は、草取りが大問題でした。暑さや蚊と格闘しながら広くもない庭でも毎日のような苦行の連続になります。とういことで、昨年秋に庭のリニューアルをしました。目標は、“出来るだけ手をかけなくてすむ庭”です。しぜん土の部分が少なくなり代わりに石を敷き、芝は必要最小限度にしてもらいました。

20年間の間に増えていた植木もだいたい整理してもらったのですが、一部は移植して新しい庭に役回りももらっています。ちょうど秋口から冬場にかけての移植でしたので、それぞれの木が春になって無事に芽をつけてくれるか？ 花を咲かせてくれるか？心配していました。

なかでも一番気がかりだったのは、一本のスモークツリーです。数年前に購入した時に、居合わせたお客さんが、店先にあった当のスモークツリーを見かけて“あなたもついにお嫁入りなのね。大切に育ててやって下さい”言われた木でした。庭をやり替えていたときには、一旦 植木屋さんの庭に移したのですが、その間に“どうやら枯れたらしい”とのことで、このお嫁入りのスモークツリーだけは戻ってきませんでした。移植に弱かったのかと残念に思っていたのですが、11月頃に小さな芽があるとのことで、もしかしたらと遅れて帰ってきました。でも、そのたった一つの小さな芽以外は、枯れているのか大丈夫なのか全く分からないまま冬を越えました、4月になりました。岩ツツジが咲いて我が家の小さな庭に春を告げます。老犬が庭を走り回ります。スモークツリーを久しぶりに見てみると小さな芽がたくさん枯れ枝のような細い枝に膨らみをつけていました。それまでは心配で毎日眺めていたのでかえって分からなかったのだと思います。

病院も4月になると新しい先生がやってきます。派遣先のどの病院にも個性があり、移ってきたところになじめるかハラハラします。毎日のように心配するのですが、ある日それまで気がつかなかったちょっとしたことで安心します。長く勤めてきた自分が知らない病院の出来事を新任の先生が知っていたり、“当直どうにか終わりました”などの報告を受けることで、「慣れてくれたんだな」と思います。環境を整えさえすれば、“親はなくても子は育つ”です。







## 想定外の生涯教育

産業医科大学第2内科同門会 名誉会長

福本 晃雄

熊本地方の余震が今なお途絶えない。我が同門藤岡宏嘉先生（S59年入局）が菊陽町に開業されている。何事にも真摯に立ち向かわれる先生ゆえその献身的対応は如何ばかりであろう。そう思いながらもお見舞い申し上げるほか術がない。

小生宅でもあの前震で家屋にしがみつき、「強い揺れに備えてください」との速報を虚しく聞きつつ倒壊するのはこうした経過をたどるのかなと、ただ耐えに耐えるだけだった。しかしだ。しかるべき手当を終えた後の余震には「またか」と平気でやりすごせていった。これを順応というならば順応は不安解消に有用だ。だが、もしこれに想定外の地震に追い打ちかけられたならばこの順応は無策どころか有害となりうる。

被害報告続出の中、熊本赤十字病院はシステムサーバーの免震化を想定外対策として前もって講じていた。それが功を奏して病院機能を失うことなく地域連携を全うしている。素晴らしい。また、夜間照明に浮ぶ熊本城天守閣に煙塵が舞う映像をみた。屋根瓦の重みが通常地震では家屋倒壊を防ぐが、想定を超える大地震では屋根瓦をふるい落とし荷重を減らして倒壊を回避するとの、慶長伏見の大地震再来を想定した清正公の工夫だったという。だが、屋根瓦を固定しない工法が再建修復を経てきた今日まで踏襲されていたのか不明だ。

想定外のことに關してはいささか小さすぎる話で恐縮だが小生は昨年老人保健施設の仕事に就いた。この決定は想定外のことだと揶揄された。これまでと大きく異なる制度ゆえ、対応の違いで先行きが不安視されたらしい。確かに過去に何度か岐路があって、その都度、勧めに応じて何とかやれてきた。それは一般病院間転勤であって、いわばよい環境下での順応であったというわけだ。それが今回は違った。これまでとは変わったことをしてみよう、それでも何とか順応できようなどと深慮とは程遠い決め方となったのだ。

老健施設では傷病老の入所者が発症するすべての悩みを一人の医師として統括、施設内で治療することが求められる。結果的には幅広い医療実務が何とかできた。いわばよい順応をしたともいえる。だが現実には世間の常識とのすり合わせの一年で、そのためには上から目線に陥りやすい態度を是正し、熱弁をふるう説得ではなく静かに繰り返す対話、時間をかけた対話に努めた刺激的な一年だった。

今後、これがどう成育するのか、想定とおりの挫折に至るのか、まだまだ予断は許されない。まさに生涯教育の実践中にある。(H28/4/25)



## 地震の思い出

産業医科大学第2内科同門会 名誉顧問

産業医科大学 名誉教授

門司労災病院 名誉院長

黒岩 昭夫

同門の皆さん、ご無沙汰しています。多くの皆さんはそれぞれの分野でご活躍のことと存じます。

私は昨年申しましたように丁度2年前に医師としての生活を終えました。多くの先輩、同僚、後輩の諸先生、その他多くの方々の援助をうけて、なんとかここまでたどりつきましたことを感謝しております。今はゆうゆう自適と言いたいところですが、何とかほけないよう、また社会の重荷にならないよう務めているつもりです。できるだけ頭と体を使って（金はあまり使わず）家に閉じこもらないで、外出、ウォーキングも適宜行い、また孫の両親が働いているので、孫の世話も若干行い、厄介者にならないように心掛けております。

先日は豊後竹田に家内と散策しました。竹田はご存知のように「荒城の月」の作曲家の滝廉太郎の生地です。一度は行きたいと、バスツアーがないか探しましたが、ないので個人的に行くことにしました。熊本からの列車は満員、乗客が皆大声で話しており、よく聞くと日本語ではない。慌てて前の方に行き、空いていた指定席の一部に座り込んで、やれやれというところでした。阿蘇観光の中国人一行と乗り合わせた次第です。一行は途中で下車しました。竹田駅を降りるとちょうど「岡城桜祭り」で町は大名行列で大にぎわい、良い時期に行くことが出来ました。岡城跡で滝廉太郎の銅像に会い、また記念館になっている生家跡も訪ねました。彼は21才で「荒城の月」の作曲をし、その他現在も歌われている幾つもの名曲を作曲したことはご存知の通りです。彼は23才で結核で早逝しました。人生は長さ（量）ではなく、いかに充実した人生をおくるか（質）が問題だと今さらながら感じた次第です。（荒城の月の作詩者の土井晩翠は仙台の青葉城に銅像と碑があり、こちらの方が便利が良いので訪問者が多い。私も何回か行きました。）ところが、この11日後に熊本大震災がおり、鉄道は不通となり、観光どころではなくなってしまいました。熊本、大分の被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

大地震と言えば福岡でも11年前に福岡西方沖地震がありました。その時は学会でちょうど東京に行っており、地震のゆれは経験しませんでした。とんぼ返りで戻りました。建物の基礎がずれており、何とか補修をして住めるようにしました。レンガ塀は全部倒れ新築したので、中身はさておき外観は却ってきれいになりました。庭には大きな木が何本かあるので、年に1、2回剪定をしてもらっています。それをしないと廃屋のような外観になります。木の剪定をすると外からは以前より立派に見えるらしく、通行の人に写真を撮られたりすることもあります。人間も理髪店や美容院で整髪し、また衣服などの身だしなみを整えることが必要です。とくに医師のような対人関係の重要な職業では外観にも心掛ける必要があると思います。

思いつくまま書きましたが、同門の皆さんの一層のご活躍を祈念いたします。また熊本大地震で被災された皆様の一日も早い復旧を祈念申し上げます。

平成28年5月2日



## 心の欲する所に従って矩を超えず

産業医科大学第2内科同門会顧問

産業医科大学名誉教授

九州労災病院 門司メディカルセンタ 名誉院長

遠賀いそべ病院 副院長 中島 康秀

今年の3月某日に後期高齢者となりました。孔子は「七十にして心の欲する所に従って矩（のり）を踰えず」と述べています。

【孔子の論語 為政第二の四 に記述されている一部であり全文を記すと、“子曰わく、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順（した）がう。七十にして心の欲する所に従って矩（のり）を踰えず”と言うものです。】

私は、ただ今現在七十を大きく超え七十半ばになりました。自分自身の来しかたを振り返ってみると、十五の年には義務教育を終え、初めて競争試験を受け四当五落と言われていた大学入学試験を受けるためのスタート台に立ち、三十の年には、米国への留学が決まり、四十の年には産業医科大学の設立に参画することになり、北九州へ生活の場を移した。五十の半ばにして、産業医科大学で残りの人生を全うすることになった。二千年以上前の孔子の時代と現代を比べると、寿命は当時とはかなり異なるとおもわれ、孔子の人生感と同一にするのは僭越ではありますが、過ぎ去った人生を後から振り返ると、人それぞれ、大なり小なりに孔子が言われた人生すごろくの上に立っていることに気づかれるのではないのでしょうか？

私は70歳の半ばになりながら“心の欲する所に従って矩（のり）を踰えず”という心境にはまだまだ程遠く、心の欲する所に従って矩を大きく踰える毎日で、欲をかいて毎日を過ごしています。然しながら、体は色々と調子の悪いところだらけですが、今一番困っていることは、脊柱管狭窄症で30メートル歩くと下半身に鈍痛が出ることです。年を取ることなど、夢にも思っていませんでしたが、寄る年は確実に寄って来ますので、若い同門の皆様は、若い間に大いに欲をかいて、若さを楽しんでください。

### 3. 医局一年の歩み

医局長 園田 信成



H27年度も大変な1年でした。来る、来ると言われてなかなか日程が決まらなかった特定共同指導“再指導”が今年2月19日に行われました。レセプトのこと、カルテ記録の問題点、電子カルテの不具合等、さらに色々と問題点を指摘されましたが、ようやく何とか終了しました。もうしばらくは勘弁してほしいなと思っています。この1年も終わってみればあっという間でしたが、医局長として今年度の第2内科を振り返ってみたいと思います。

まず最初は、何と言っても竹内正明先生（臨床検査・輸血部診療教授）と田村雅仁先生（腎センター診療教授）合同就任祝賀会でしょう。6月19日小倉ステーションホテルにて開催致しました。竹内先生には絵画、田村先生には高級ワイングラス、またお二人が医師になられた年代のワインを記念品として贈呈し、沢山の同門の先生方にも集まって頂き盛会でした。このような会を企画運営するのは私自身初めてでしたが大変勉強になりました。6月から柳沼和恵先生が矢野先生（病欠）の助っ人として九州労災病院に派遣されました。7月には春木信彦先生がカナダトロント大学留学から帰国され、産業医大若松病院診療科長に就任しました。同月11日に同門会総会がホテルクラウンパレス北九州で開催され、特別講演には高知大学医学部老年病・循環器・神経内科学講座の古谷博和先生にお越し頂き、「幽霊はどこにいる？ 脳と怪談の不思議な関係」についてご講演頂きました。常識を覆すような大変面白い話で、1時間の講演中誰1人寝ていなかったのは印象的でした。黒岩賞は、左心機能が保たれた無症候性重症大動脈弁狭窄症を2D、3Dスペクトルトラッキングエコーで評価し予後との関連をまとめJACC Cardiovascular imagingに報告した、永田泰史先生が受賞しました。9月から大谷恭子先生が第2内科から臨床検査・輸血部に移動されました。11月には現在3年目で九州中央病院研修中の仲悠太郎先生が第2内科に入局してくれました。12月は第2内科忘年会を若松にある料亭金鍋で行いました。沢山のかくし芸で大変盛り上がりしました。今年4月からは3年目の赤司純先生、宮本太郎先生、6年目の矢野聡先生、古野郁太郎先生、中園和利先生（現在 救急部）、10月より橋本博司先生、鍋嶋洋裕先生（現在 若松病院）が大学に帰任され、大学研修を頑張っています。大学院には屏壮史先生と清水昭良先生と同級生二人が仲良く？入学し研究を始めています。また、穴井玲央先生、岩瀧麻衣先生、板東健一郎先生がスタッフとして現在頑張っています。産業医大若松病院では5月から透析診療が始まり、第2内科との連携を益々強化して頑張っていかなければなりません。6月からは芹野良太先生が芳野病院へ移動、宮本哲先生が大学に帰任されます。

H28年度の新入局は、石井望務さん、角森大樹さん、佐橋秀一さん、牧野愛子さんの4人でした。現在2人が大学、残り2人が学外研修中で、これからの成長が楽しみです。実は今年の医師国家試験成績が芳しくなく、当科入局を決めてくれていた学生も一部残念な結果となってしまいましたが、来年の合格を心より祈念しています。

最後に、H27年度病棟医長の村岡秀崇先生、外来医長の中野陽子先生、1年間大変お疲れ様でした。H28年度の病棟医長は福田祥大先生、外来医長は板東健一郎先生にお願いしました。1年間どうぞ宜しくお願いします。私も“2年間”という医局長としての任務がようやく終わりました。色々と大変でしたが沢山の経験が積めて良い人生勉強になりました。今後は一スタッフとして、第2内科の発展のために、同門の先生方のお力になれるよう精進して参りたいと思います。引き続き皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。（文責：園田信成）





集合写真 平成 28 年 5 月 16 日 撮影



## 院内カンファの様子



循環器内科・腎臓内科カンファ（月曜日 病院 3F カンファレンス室）



医局会（月曜日 18:00～ 医局カンファレンスルーム）



心カテカンファ（木曜日 医局カンファレンスルーム）



腎カンファ（金曜日 8A カンファレンスルーム）

## 新任・昇任スタッフの自己紹介



循環器内科、腎臓内科  
助 教 林 篤 志

2015年4月1日より産業医科大学循環器内科・腎臓内科の助教を拝命致しました。私は2013年5月より産業医科大学にお世話になっております。2014年10月からの6ヶ月間は若松病院勤務も経験致しました。現在は心エコーを用いた診療に従事しております。尾辻教授、福田先生の御指導のもと研鑽を積んでいるところでございます。心エコー検査の結果は患者様の診断、治療方針の決定に大きく寄与します。それだけに心エコー検査の結果には大きな責任があり、日々緊張感を持って仕事に臨んでいます。また、心エコー室は循環器に関わる全ての患者様が訪れる場所といっても過言ではありません。私は様々な循環器疾患に巡り会う事ができる最高の場所で仕事をさせて頂いております。日々の診療が常に勉強となり、また新しい発見に巡り合えるかもしれない期待感を抱きながら仕事に臨めております。心エコー検査は若手循環器医師の必修の技術であり、特に救急疾患のスクリーニング、評価は重要です。若手医師でも気軽に訪れ、心エコー検査を実践できるような心エコー室でありたいとも考えております。心エコー検査を通して診療、研究、教育に力を注いで参りたいと思います。まだまだ未熟ではございますが、先生方の診療に少しでもお役立ていただけるよう精一杯尽力して参りますので、どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



救急科  
助 教 岩 瀧 麻 衣

2015年10月から2016年3月まで産業医科大学救急科 助教を拝命致しました。このたび、救急科で勤務させていただいたことで、救急科として他科との関係性を肌で感じる事ができました。救急科の先生方は様々なストレスの中で働いていることがわかり、私自身が第2内科に戻った時に、気をつけなければいけないなど、自分自身を振り返る良い機会にもなりました。また、救急外来では、いわゆる本物の循環器疾患は週に数例しかみる機会がなかったため、現在は多数の循環器症例を診させていただけること、心エコー画像を沢山みれることが楽しくてたまりません。私は、2016年度からは第2内科へ異動となりましたが、今後とも救急科へのご支援の程、何とぞよろしくお願ひいたします。



腎センター  
助 教 中 野 陽 子

2015年5月1日より産業医科大学病院腎センター助教を拝命致しました。2013年7月より産業医科大学第2内科助教を拝命してからの異動となりましたが、日々の業務内容としては変化なく、外来や病棟業務、腎センター当番などを行っております。第2内科学所属の折、どれほど医局に貢献できたが分かりませんが、所属は異なってもこれまでと同様に微力ながらできることから行って参りたいと思っております。

また、腎センターは各診療科の垣根を越えて、腎疾患（透析療法や急性腎不全などの）の診療を行う部門です。これからも相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、少しでも患者様の笑顔につながる診療に貢献できるよう尽力したいと思う所存です。今後ともどうぞご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



循環器内科、腎臓内科  
助 教 坂 東 健 一 郎

2016年4月1日より産業医科大学循環器内科、腎臓内科の助教を拝命しました坂東健一郎と申します。2004年に産業医科大学医学部を卒業後、産業医科大学病院で2年間の初期臨床研修を修了し、2006年から鞍手町立病院、2007年から芦屋中央病院勤務を経て、2008年から産業医科大学病院で後期臨床研修、2010年から2年間はJR東海で産業医を経験させて頂きました。2012年から産業医科大学に復帰し、2015年から再び芦屋中央病院勤務となっておりますが、このたび2016年4月から大学に帰任する機会を頂き、現在に至っております。大学では腎臓内科を中心として臨床診療に加えて、田村先生の御高配もあり、薬理学教室の柳原延章先生のもとでウシ副腎細胞におけるカテコールアミン分泌ならびに生合成の実験に携わるという貴重な経験をさせて頂いております。若輩者であり諸先生方にご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、微力ながらお役に立てますよう精進して参りますので、今後とも御指導・御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



循環器内科、腎臓内科  
助 教 穴 井 玲 央

2016年4月より産業医科大学循環器内科、腎臓内科の助教を拝命致しました穴井玲央と申します。私は2006年に産業医科大学医学部を卒業後、小倉記念病院で2年間の初期臨床研修を行い、2008年からは産業医科大学病院で研修を行いました。2009年からは2年間、九州労災病院で黒田先生のご指導のもと勤務し、2011年からは産業医科大学病院および若松病院で勤務させていただいておりました。2012年より3年間、名古屋のJR東海で産業医として勤務し、その間に、園田先生より多大なご指導を頂き、造影剤腎症での学会発表もさせていただきました。2015年4月より救急科、2015年10月より産業医科大学若松病院と勤務し、2016年4月より現在に至ります。

現在は、心カテグループで、園田先生の指導の下、血管内イメージングや造影剤腎症などをメインに勉強させていただいております。まだ、大学での業務、研究など不慣れなことが多く皆様にご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、精一杯尽力して参りますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



## 4. 産業医科大学若松病院からの新任挨拶



循環器内科・腎臓内科  
診療科長・准教授 春木 伸彦

平成 27 年 6 月末で前任の沼田哲也先生が異動され、7 月より後任として若松病院循環器内科・腎臓内科の診療科長を拝命いたしました。

平成 25 年 7 月から 2 年間カナダ・トロント大学に留学しており、完全に臨床から離れていたため、2 年ぶりに臨床の現場に戻る事だけでなく、診療科を率いる立場に立たされる事への不安が大きかったのですが、若い先生たちの頑張りのおかげでその不安も払拭されました。私は平成 19 年 9 月に第 2 内科学に入局させていただきました。それまでは完全な臨床畑で、ただひたすら目の前の患者さんの診療に必死でした。産業医大に赴任してからは、日々の臨床の中で感じる疑問を臨床研究という形で解決する術を教えてくださいました。研究した内容を論文して形に残す事の重要性も実感できました。「臨床を疎かにする者は良い臨床研究は出来ない」という恩師の言葉を改めて認識し、留学から帰国後は現職でもう一度自身の臨床力を見つめなおす日々を送っております。

この度 8 月末をもって、一身上の都合により産業医大を退職し、地元山陰に戻ることになりました。留学期間を含む 9 年間、産業医大第 2 内科の皆様には本当にお世話になりました。他学出身の身でありながら分け隔てなく接して頂き本当に有難うございます。この場を借りて深く御礼申し上げます



循環器内科・腎臓内科  
助 教 穴 井 玲 央

2015 年 10 月より産業医科大学若松病院循環器内科・腎臓内科に前任の岩瀧先生の後任として着任致しました。

JR 東海での産業医の後に 2015 年 4 月より救急科で半年間お世話になり、10 月より 2016 年 3 月までの半年間、春木准教授のもと若松病院での診療に従事させて頂きました。大学病院や急性期医療とは少し違った環境で、心エコー、心不全治療、心臓リハビリをメインに取り組んで参りました。大学病院より敷居は低くても、クオリティーは大学病院並みを目指し半年間診療を行って参りました。少人数ですが、その分ネットワークは軽く他科との連携や相談もしやすい環境でした。また、留学から帰ってこられた春木准教授のご指導の下、心エコーやカンファでは良い意味での刺激が加わり非常に勉強させて頂きました。

若松病院では検査や治療などでは大学病院ほどの先進的な治療は難しいところもありますが、その反面コメディカルと連携して退院調節や外来での細かいフォローなど地域に根ざした診療が可能です。病棟も吹き抜けの中庭や広くてキレイな大部屋、おいしいと評判の食事など大学に負けない強みもあります。今後とも、同門の先生方、地域の諸先生方のお力添えいただき、若松病院をよろしくお願い申し上げます。

## 5. 新入教室員自己紹介



赤 司 純

平成 26 年に産業医科大学を卒業し、平成 28 年 4 月より産業医科大学病院第 2 内科の後期修練医として勤務させて頂いております赤司純と申します。研修を修了し、専門分野に進み主治医として診療を行うことに喜びと不安を感じながら日々を過ごしております。出身大学に戻ってきたことで学生時代からお世話になった同級生や先輩方と働くことができ、嬉しく思っています。医師として未熟であり、また循環器・腎臓内科の診療に必要な手技など十分にできないことも多く、諸先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。しかし自分にできることを自ら見つけ、実践することができるように精進し、疾患を診ることはもちろんですが病気を通して人と人とのつながりを大事にできる医師になりたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



宮 本 太 郎

平成 28 年 4 月から、産業医科大学第 2 内科にて後期研修医としてお世話になります、3 年目の宮本太郎と申します。生まれは北九州で、大学ではラグビー部に所属していました。好きなことは、釣りとお酒を飲むことなので、お誘い頂ければ幸いです。

私は、初期研修を山口県の関門医療センターでお世話になり、勉強以外にも患者さんとの接し方など医師として大切な事を多く学ばせて頂きました。4 月から大学病院で勉強させて頂ける事になり、至らない所が多いため、日々先生方にご迷惑をおかけして申し訳なく思っています。同期は例年に比べ少なく、少し寂しいですが、優秀な友が多く、刺激になりながら楽しく勉強させて頂いています。上の先生方は優しく、頼ってしまう事が多い毎日ですが、なるべく早く一人前になれるよう、勉強を怠らず精進していきたいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどどうかよろしく願い致します。



## 山 岸 靖 宜

平成 26 年に産業医科大学を卒業し、埼玉で 2 年間の初期研修を経て平成 28 年より産業医科大学第 2 内科の関連病院である九州労災病院で後期研修医として働かせていただいております。分かることより分からないことの方が多いためですが、高津先生を筆頭に、本当に優しくいろいろと教えてくださる先生方には感謝しかありません。これから長い医者人生、楽しむところは楽しんで、しっかりやるところはしっかりやって患者も自分も幸せになれるように頑張っていきたいです。まだまだ足らぬところも多いと思いますが、ご指導・ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。



## 仲 悠 太 郎

本年度から入局させていただきます仲悠太郎と申します。出身地は鹿児島県でラサール高校を経て 2014 年に産業医科大学を卒業しました。

初期臨床研修の 2 年間は福岡市の公立学校共済組合九州中央病院で行い、多くのことを勉強させていただきました。大学卒業時には専門科選択で悩んでいましたが、研修中に循環器内科を志し産業医科大学第 2 内科に入局をさせていただきました。4 月から 1 年間のみ九州中央病院に残って後期研修をさせて頂き、中規模病院でできる循環器治療に関して勉強させていただきます。

医者として駆け出しでありご指導いただきながらではありますが、少しでも早く一人前になれるよう精一杯頑張りますのでご指導のほどよろしくお願い致します。

## 6. 新研修医便り



独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター

佐藤 由季

(研修期間 平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月)

大阪南医療センターにて初期研修医として働き始めて早くも1年が過ぎました。入職したての頃を思い返してみると、わかることや出来ることが徐々に増えてきている今の自分に気づきます。

学生時代、先輩医師に「働き始めると見える世界がガラッと変わる」と聞いたことがありますが、この1年間は「なるほど、その通りだ」と思うことの連続でした。多くの患者様の生死や様々な医療スタッフの信念に触れ、時には悩み葛藤することもありましたが、そのような経験をするたびに見える世界がだんだんと広がっていき、現在の自分が形成されているように思います。とはいえ、まだまだ今の私には見えていない世界のほうが多いと思います。決して今の自分に見えている世界が全てであると驕らず、これから新たに経験していこうと思う多くの事柄を大切に日々精進していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



独立行政法人地域医療機能推進機構

徳山中央病院

下山 尊弘

(研修期間 平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月)

平成 27 年より山口県の徳山中央病院で初期研修をさせて頂いております下山尊弘と申します。初期研修が始まり早くも1年が経過しました。この1年を振り返ると、未熟さを痛感させられる毎日であり、指導医の先生、同期の仲間、様々な医療スタッフに支えて頂きながら日々を過ごしておりました。しかしながら、この4月より私にも後輩ができ、業務について指導する機会や任される機会も増え、少しですが成長も実感しております。

初期研修も残り1年をきり後期研修に対する不安や心配を考える日もありますが、今できることをしっかりと行い3年目以降、産業医科大学に戻ったとき少しでもお役に立てるようまた悔いの残らないよう残りの研修生活も日々精進していきますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。





市立岸和田市民病院

柳 生 圭士郎

(研修期間 平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月)

平成 27 年 4 月より市立岸和田市民病院で初期研修をさせていただいている柳生 圭士郎と申します。当院は大阪南部、泉州地域にある病床 400 床の中規模病院で、地域の中核病院として救急医療から高度医療まで幅広い役割を担っており、研修する我々も様々な症例を経験させていただいています。初期研修を開始してもう一年もたったのかと思うと信じられないような気持ちではありますが、病院スタッフや職員の皆さまに支えられ、患者さんから多くのことを学ばせていただいています。本年 4 月より後輩たちも入職し、彼らとともに業務を進めるにつけ、去年の自分のことを思い出しますが、いかに自分たちが周囲の人に支えられていたかを気づかされます。自分も後輩にとって良き先輩であるよう、そして自信をもって助言を与えることができるよう、日々修行していきたいと思えます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 非入局学内ローテーション研修医

稲 葉 優 奈	平成 27 年 4 月 13 日～平成 27 年 5 月 31 日
日 高 弘 晴	平成 27 年 6 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日
渡 邊 舟 貴	平成 27 年 6 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日
邨 月 玲	平成 27 年 8 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日
居 林 興 輝	平成 27 年 7 月 13 日～平成 27 年 9 月 30 日
渡 邊 俊 介	平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 1 月 31 日
今 村 克 郎	平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

### 仮入局学外研修医

研修期間：平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月

佐 藤 由 季	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
下 山 尊 弘	独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院
柳 生 圭士郎	市立岸和田市民病院

# 学外研修報告会と実技講習会

荒 木 優

恒例の研修報告会ですが、平成 28 年 2 月 13 日（土）に行いました。今回も心臓血管外科と共同で行っています。研修 2 年目は、赤司純先生（東京通信病院）・宮本太郎先生（関門医療センター）・仲悠太郎先生（九州中央病院）・岸上越夫先生（平塚市民病院、心臓血管外科）・瀧川友哉先生（京都大学付属病院、心臓血管外科）が参加しました。研修 1 年目は、佐藤由季先生（大阪南医療センター）・下山尊弘先生（徳山中央病院）・柳生圭士郎先生（市立岸和田市民病院）・西健斗先生（京都大学付属病院、心臓血管外科）が出席し、2 学年併せると 9 名の研修医が集まりました（写真）。それぞれ立派な研究報告をしてくださいましたので、その成長ぶりが解り、研修病院の特徴も解りました。懇親会は例年通り産業医大の近くの焼肉おうち座にしました。翌日 2 月 14 日（日）は心臓血管外科恒例のウエットラボ（豚の心臓手術実習）と第 2 内科の実習（今回は不整脈グループ担当の研修医のためのペースメーカープログラミングおよび 3 次元ナビゲーションシステムを用いた肺静脈隔離術のシミュレーター実習）でした。あまり経験することのない手技を体験でき、充実した実習になりました。



## 7. 外来・病棟この一年 平成27年度



### 外来この一年

外来医長 中野陽子

この1年は外来新患総数 14,555 名と前年とほぼ変わらない状況でした。外来医師数に増減はなく、従来通り火曜日 11 名（循環器内科 8 名、腎臓内科 2 名）、金曜日 8 名（循環器内科 6 名、腎臓内科 2 名）で診療を行いました。

#### 【外来診療日】

- ・外来医師によって診療曜日が決まっています。医師をご指名頂く場合は、診療日に受診して下さい。各外来担当医の休診日はホームページに掲載していますのでご参照下さい。
- ・当院は医学教育機関であり火曜日は外来診療のポリクリ実習を行っています。新患患者様の中からお一人、実習にご協力頂いておりますのでご理解のほどお願い致します。
- ・金曜日は学会参加などの都合にて休診となる医師が少なくなく、新患患者様をお待たせすることがあるかもしれません。ご了承下さいますよう患者様へお伝え願えれば幸いです。
- ・緊急を要する患者様（救急搬送が必要など）に関しましては、当科救急当番医が対応致します。外来医長もしくは救急当番医へご一報頂けますと、診療が円滑に運ぶと思われれます。
- ・大学病院は逆紹介も求められています。患者様の病状安定時には、開業医の先生方での継続ご加療をお願いすることがあると思いますので、よろしくお願い致します。

#### 【外来診療日以外】

- ・毎日当科救急当番医が待機しております。当科へ受診希望の際は、担当医までご連絡ください（オペレーターに第2内科救急当番医へつないでもらうようお願い下さい）。

この一年を振り返って

外来診療を始めて11ヵ月、ようやく患者様の顔と名前、疾患が一致し始めた矢先の外来医長の任務であり、私の患者様にはこれまで以上の待ち時間に耐えて頂いたのではないかと大変心苦しく思っているうちに、1年が過ぎました。火曜日に新患振り分け係をして下さった大江先生、金曜外来の担当医の先生方には大変ご迷惑をお掛けしたことと思います。大変感謝しております。2016年5月からは、外来医長は坂東健一郎先生となり金曜日の新患振り分けを行います。火曜日は村岡秀崇先生が担当します。よろしくお願い致します。







## 平成 27 年度病棟医長を振り返る

病棟医長 村岡 秀 崇

平成 27 年 5 月より、前任の大  
江学治先生から病棟医長を引き継  
がせて頂きました。今年度は、病棟業務は主に、専修医  
3 年目（岡部先生、北野先生、菅先生、瀬戸山先生、塚  
原先生、橋本先生、早川先生、渡邊先生）、4 年目（三  
浦先生）、5 年目（岩垣先生）、6 年目（清水先生、屏先生）、  
7 年目（楠本先生、前田先生）と総勢 14 名と非常に豊  
富な人員で担当して頂きました。例年主治医をお願いす  
るのに非常にやりくりしに困ることがある一方で、今年度はほぼ悩むことなく主治医をお願いすることが  
できました。むしろ、時間を持って余さないように目を光らせていたという見方もあるでしょうか（笑）。  
病棟に大勢の人が居るといことは賑やかで活気がありました。皆さん個性派ぞろい（良くも悪くも ...）  
で話題には事欠かなかったことを今も覚えています。研修医の先生も定期的に研修に来て頂き、一緒にな  
って診療に取り組みました。



大変お世話をした専修医を囲んで

今年度は、急患が多く病棟が満床になり、他病棟にも入院をお願いする状況が多かったように思いま  
す。同門の先生方や近隣の病院からのご紹介や救急部の先生方のご尽力のおかげと推察します。主治医  
の先生方を始め、病棟スタッフ（看護師・薬剤師・エイドさん）には忙しい毎日でご迷惑をおかけした  
と思いますが、円滑に病棟運営が行えたことに感謝しております。2 月には特定共同指導の再指導があ  
り、その準備にまたもや大変でしたが、医療スタッフ同士の協力の下で無事に乗り切ることができまし  
た。

病棟医長がスタートし、「毎日の退院サマリーの確定、毎週の新患リスト作  
成、入院患者の確定などなど」をこなし、気が付けば 1 年が経過してしまっ  
たというのが本音でしょうか。しかし、この 1 年で病棟業務や病院内の業務  
を通じて多くの方と接することができ、様々な貴重な経験をさせて頂きまし  
た。その意味では病棟医長をさせて頂き、本当に感謝申し上げます。



教授回診の風景

但し、病棟のレクリエーション（飲  
み会？）が満足に行えなかったことに  
力不足を感じております（すみませ  
ん）。一方で、忘年会の芸はやり遂げた感があります（自己満足）。

平成 28 年度 4 月からは大谷師長から岩田師長に変わり、8A  
病棟は新たなスタートを切り、5 月からは、福田祥大先生が病  
棟医長を担当されます。現在心エコーグループのまとめ役であ  
り、私よりも医師としての経験も豊富ですので、病棟業務を円  
滑に進めて行かれると思います。私も陰ながらサポートさせて  
頂きます。今後とも第 2 内科学、8A 病棟をよろしくお願い致  
します。1 年間、誠にありがとうございました。

## 循環器内科・腎臓内科診療実績

	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
産業医科大学病院全体診療報酬 (百万円)	13,584	15,185	15,564	16,212	17,718	18,291	19,947	20,496	20,074	21,104
循環器内科・腎臓内科診療報酬 (百万円)	1,058	1,294	1,286	1,280	1,350	1,430	1,469	1,713	1,575	1,655
平成18年度に対する伸び率	-	22.30%	21.55%	20.98%	27.60%	35.16%	38.85%	61.90%	48.87%	56.43%
病院全体に占める割合	7.80%	8.50%	8.30%	7.90%	7.62%	7.82%	7.36%	8.36%	7.85%	7.84%
＜外来＞										
循環器内科・腎臓内科外来患者 総数	15,655	15,829	15,887	15,381	16,548	15,331	15,131	15,091	14,298	14,555
循環器内科・ 腎臓内科外来診療報酬(百万円)	233	307	301	318	343	348	352	395	352	344
平成18年度に対する伸び率	-	31.8%	29.2%	36.5%	47.2%	49.4%	51.1%	69.5%	51.1%	47.6%
病院全体に占める割合	5.6%	6.6%	6.2%	6.1%	6.0%	5.6%	5.5%	5.9%	5.4%	4.9%
外来紹介率(%)	86.9%	88.7%	95.4%	93.0%	98.4%	97.8%	95.5%	95.5%	92.9%	95.2%
＜入院＞										
循環器内科・腎臓内科入院患者総数 (年間延べ人数)	12,333	12,552	12,494	12,095	11,123	11,697	11,981	13,023	13,054	13,251
新入院患者数(うち数)	596	634	718	720	851	865	953	966	1,044	1,134
循環器内科・ 腎臓内科入院診療報酬(百万円)	825	987	986	962	1,007	1,082	1,117	1,318	1,223	1,311
平成18年度に対する伸び率	-	19.6%	19.5%	16.6%	22.1%	31.2%	35.4%	59.8%	48.2%	58.9%
病院全体に占める割合	8.7%	9.4%	9.2%	8.8%	9.0%	8.9%	8.3%	9.5%	9.0%	9.3%
稼働率	105.6%	107.2%	107.0%	103.6%	95.7%	99.9%	90.5%	99.1%	99.3%	100.6%
平均在院日数	19.6日	18.7日	16.5日	15.5日	11.9日	12.5日	11.5日	12.3日	11.4日	10.8日



---

Clinical Clerkship (クリニカルクラークシップ)：今年度も4週間連続第2内科で勉強をしてもらいました。今年度も循環器Ⅰ、循環器Ⅱ、腎臓と3つのコースを作り、マンツーマンで、患者さんをじっくり診てもらいました。気づきませんでしたでしたが心電図を自分で記録する実習がありませんでしたので、今年から入れてあります。学内実習に加えて毎週金曜日に市立八幡病院で当直実習をさせていただきましたが大好評でした。教育の国際認証に向けて実習が今後大幅に増えて教育スタッフの負担も増えることになると思います。みんなで分け合いながら良い教育ができればと思います。

**総合試験**：総合試験Ⅰと総合試験Ⅱは、合計1000問を作成し、ブラッシュアップし、試験を行い、採点し、学生から疑義を聞き、低正答率問題の検討をして、採点除外の必要があるかどうか？検討し、最終的に合格・不合格を決める大変な仕事です。総合試験を年に2回も、しかも自前で行っている大学は近隣になく、産業医大の国試成績が良かった原因はこれかもしれないと思っていました。しかし、今年度の国家試験合格率が悪かったために試験問題をどのようにすべきか？議論が始まっています。良い問題を作ることは大切ですが、国試も総合試験も相対評価(同学年生・同級生よりも劣っていれば不合格)です。卒業生のレベルを上げるのは、良い問題を作るだけでは解決せず、おそらく合格基準を厳しくする方向に動いていこうと思います。この中でどのように除籍者(退学者)(全国医学部でも産業医大でも入学生の3%は卒業できません)を増やさないかが今後の課題です。

**個人的な英語心電図抄読会**：学生のために何ができるか？を考えていました。昨年、山口大学の松崎益徳前教授にインタビューをさせていただきました。その時に松崎先生のスーパーマンのような仕事ぶり(28歳のときに山口から土曜日の夜行で東京へ行き、日曜日朝からアロカ社(当時は日本無線社)の人と会って仕事をして、日曜日の夕方東京発の夜行に乗り、月曜日の朝から山口で働くを繰り返して経食道心エコー図プローベを作成する等)を改めて確認し、「とてもマネできない!」と思いました。しかし、その時に「医学部学生に2週間に1回英語で心電図を教えていた。きつかったけどやりがいもあった」というお話を聞いて、「これだ!これなら松崎先生のマネをできる!」と思い、2015年の6月ぐらいからBraunwald先生教科書の心電図chapterを3-5名ほどの学生といっしょに読んでいます。1時間で半ページぐらいのゆっくりとしたペースですが、参加した学生は楽しんでいるようです。春休みに海外の病院で研修した学生が「尾辻先生から習った英語が通じた。ありがとうございます。」と言って、ワインをもらったりしました。やはり学生と付き合うと楽しいです。

以上、産業医大の教育は全般に熱心で良いと思いますし、学生もそれを楽しんでいると感じます。しかし、曲がり角に来ています。今後も良い医師を多く輩出できるように努力するつもりです。良いアイデアがありましたら是非お知らせください。



## 10. 訪問研究員便り



群馬大学大学院医学系研究科臓器病態内科学

小保方 優

(研究期間 平成 27 年 4 月～6 月)

群馬大学医学部附属病院循環器内科の小保方優（おぼかた まさる）です。私は 2015 年 4 月～6 月まで第 2 内科に国内留学し臨床研究をさせていただきました。竹内正明先生のご指導のもと、心エコー図を使って、1) 駆出率の保たれた心不全患者・低下した心不全患者の予後予測因子の検討、2) 心室動脈連関が運動負荷誘発性肺高血圧に与える影響について主にテーマとさせていただき、さらに心臓 MRI・3D・2D 心エコーで測定したストレイン値の比較やアミロイドシスの予後予測因子を同定する研究についても関わらせていただきました。また研究内容以外にも、この 3 カ月間で今後臨床研究をしていく上で大事なことを 3 つ学ぶことができました。1 つ目はデータの重要性であり、統一した方法によって、欠損値を可能な限り少なくし、同時にデータの質を担保する。さらに得たデータをよく吟味することの重要性も学ぶことができました。2 つ目は自施設以外のシステムを知ることで、自施設のレベルを確認できることです。井の中の蛙になることなく、自分の置かれている現状を把握することが必要と考えました。また他施設で活躍されている先生を知ることで自らのステップアップの機会につながると感じました。最後に一緒に研究をできる仲間の存在の大きさを再確認いたしました。永田先生はじめ、角先生、尾上先生にはいつもよくしていただき感謝の言葉ありません。同時に切磋琢磨できるライバルでもあり、いつもよい意味で刺激をもらっていました。

3 カ月という短い期間でしたが、たくさんの研究、臨床研究に対する考え方を学ばせていただきました。第 2 内科で臨床研究をすることができて自分にとって大きなプラスになりました。最後に、毎日時間を割いてご指導してくださった竹内先生、尾辻先生、第 2 内科の先生方、秘書さんに感謝の気持ちを述べて終わらせていただきます。





**Li-Tan Yang, MD 楊荔丹**

Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Tainan Hospital, Ministry of Health and Welfare, Tainan, Taiwan

(研究期間 平成 27 年 8 月～平成 28 年 5 月)

Time flies. Nine-months had passed quickly. I'm grateful to have the chance in my life to stay in this beautiful campus, UOEH, to enhance my skills in clinical research, and got to know my mentors (Prof. Takeuchi, Prof. Otsuji) and so many good people, including the secretaries in the second department of Internal Medicine, my colleagues (Dr. Nagata, Dr. Kado, Dr. Otani), sonographers and other senior cardiologists in the echo lab. Exploration in knowledge and research is interesting, but sometimes daunting. Therefore I not only learned to be more patient, to look for ways to resolve a problem, but also to cope with stress (exercise, reading, traveling, and gathering with friends). I'd like to thank Ms. Matsunaga and her husband, who brought me to visit many places and introduced me to the English club, where I met many interesting friends. Before my long stay, I had visited Japan for two times. However, only through a longer stay, can I learned more about this fascinating culture in depth. Finally, I wish all my friends everyday filled with smiles, laughter & blessings!

**Figures:** Academic meetings allowed me to visit other cities in Japan. I want to thank Dr. Takeuchi for giving me these chances.



(Upper left) Views from Arashiyama during AFSUMB meeting. (Upper right) Presentation in AAE meeting in Osaka. (Lower left) Dinner in AAE meeting in Osaka. (Lower right) JCS meeting in Sendai in March, 2016 with my two colleagues, who taught me a lot.

## 11. OB 会員の先生からの便り



宗像市在住 永元 康夫 (昭和 54 年入局)

### 天井画の花と樹木

今年の3月、熊本城と豊後竹田の岡城を三度訪れました。宿泊地は、熊本市内、南阿蘇、湯の平でした。ほぼ一カ月後に熊本・大分地震が起きましたので、複雑な気持ちです。早期の復興をお祈りしております。

熊本城は本丸御殿の昭君之間の天井画、岡城は岡城天満神社の天井画が気に入ったからです。前者は19世紀前半杉谷行直が描いたものを京都の絵師が復元しました。天井画は写真撮影が禁止されており、写真(左)はWebでしか見ることが出来きず詳細は不明です。岡城天満神社の天井画の写真(右)は一部しか写していませんので、正確な数と花の名前が不明です。



そのため、本丸御殿の昭君之間に二度出かけ、ガイドの方に無理を言って「昭君之間天井画の杉谷行直筆縮図」のコピーをいただきました。これによりますと、天井画の花と樹木は次の通りです。水仙、桔梗、南天、松二雪(松に雪)、柳、雪二椿、山吹、雪二梅、海棠、芍薬、松二椿、正ピン(バラのこ)、竹、仙翁、紅葉(モミジ)、菊、白梅、木犀、牡丹、海棠、桃、野菊、菖、白菊、芙蓉、一重桜、八重桜、桃、岩菲、竜胆(リンドウ)、白菊、桐、手丸、芍薬、桃、藤、菊、白仙翁、菊二戴(キクニカヤ(戴は判別できない漢字です。多分、茅→ススキと思います))、花柘榴(ハナザクロ)、芙蓉、松、牡丹、椿、野菊、葡萄、正ピン、紫陽花、白粉花(オシロイバナ)、山茶花、葛、仙翁、菊、花柳、桃、山桃、撫子、此手柏、白正ピンの60です。わたしのHP「樹木の花」には、海棠(カイドウ)、岩菲(ガンピ)、竜胆(リンドウ)の写真がありません。

岡城天満神社にも再度出かけましたが、落成式(古い神社を改修)が行われていたため写真撮影が出来ませんでした。ここの天井画は豊後竹田と大分市の絵師が描いた花と樹木ですが、昭君の間と同じものが多くあります。古墳の石室にみられる風水説に基づく四神相応、即ち北玄武、東青龍、南朱雀、西白虎の図ではありません。寺院の天井画にみられる青龍でもありません。日常生活で楽しむことのできる花や樹木です。それだけに親しみが持てます。写真をアレンジして天井画と同様の配列図をつくるのが現在の夢です。



## みずき内科クリニック（田川市）

水 城 恒 隆（昭和 62 年入局）

皆様、こんにちは。2012年12月より田川市立病院横でクリニックを開業しております。開院から約3年半が経過いたしました。本当にあっという間の時間でした。現在のところ、毎日楽しく慌ただしく外来診療を継続できています。

去年は同誌に生活習慣病コントロールの重要性につき投稿させていただきました。しかしながら、考えてみますと自らのコントロールが全くついていない事にふと気付きました。久々に会う人、会う人から“太ったねー”“腹が出たねー”と、挨拶がてらでなく本気で御心配頂いての言葉から始まるようになったのです。振り返りますと18才での産業医大入学当時は55kg→卒業時・第2内科入局時60kg→産医大薬理学教室での研究～飯塚病院勤務時65kg→門司労災病院勤務時70kg→田川市立病院勤務時75kg→開業後3年経過時には一時期80kgと体重計に乗ってみて驚愕したばかりです。一時期、UA>10, TG>400と更に驚愕のLabデータも目の当たりにし、“高血圧症・糖尿病・脂質異常症等のコントロールが良好な患者さんは本当に心血管イベントの発症が少なく、長生きなのです。”と前号では偉そうなことを述べておりましたが、これでは私は短命ですと言っているようなものです。“良いものばかり食べてるから”と先輩開業医の先生方からは言われていますがそんなに良いものは食べておらず、また飲料水はヘルシアか伊右衛門特茶しか飲んでおらず、意識としては“Diet・Diet・・・”と念じている状況です。サッカーばかりに熱を入れ、“紅顔の美少年”として過ごした大学時代との違いはやはり運動量の低下以外にありません。

まさに“太りやすさ・痩せにくさの医学”を地で行っているわけですが、同門会までの約一か月間は少し運動でもやり始めてみようかなと考えている今日この頃です。ただし、大学入学時から比べればなんと1.5倍にまで成長した体重は最後はかの“ライザップ”にでもすぎるしかないかもしれません。

実は今年の目標は“痩せること”と考えておりましたが、仕事に感けて既に半年が経過してしまいました。運動以外にも危険な方法でなく何か良い方法がございましたら、第2内科同門の先生方、御教示のほど何卒宜しくお願い申し上げます。







琉球大学大学院医学研究科薬理学（沖縄県西原町）

教授 筒井 正 人（昭和 63 年入局）

第2内科の皆さん、こんにちは。産業医大5回生の筒井です。私は平成21年の6月に琉球大学に赴任しましたが、第2内科教室便りの寄稿締切は毎年5月で、この便りの執筆は私にとって赴任後の一年一年を振り返る良い機会になっています。ここ一年の近況をご報告させていただきます。

最初に、琉球大学医学部と附属病院の移転についてご紹介します。辺野古への移設が問題となっている普天間飛行場の隣に、西普天間という土地があります。この土地は戦後在沖米軍の住宅地として使用されてきたのですが、昨年3月に日本に返還されました。政府は、跡地利用のモデルケースとするために、西普天間地区に国際医療拠点を形成することを計画し、琉球大学医学部と附属病院が8年後にそこに移転することが決定しました。同地区には、先端医学研究センター、重粒子線治療施設、および創薬研究開発拠点を新設することも検討されています。この土地は海辺の高台に位置し、景観を生かして、最上階にカフェやレストランを備えた18階建ての病院や、最上階に会議場を備えた15階建ての研究棟を建設すること、および、出来るだけ多くの病室や研究室がオーシャンビューになるように建物を配置することが計画されています。

次に、最近私達が行っている一酸化窒素(NO)の研究についてご紹介します。第2内科の守下敢先生らがNO合成酵素(NOSs)完全欠損マウス(triple nNOS/iNOS/eNOS-/-マウス)の樹立を2005年にPNASに報告して以来、11年が経過しました。初期の研究では、NOSs完全欠損マウスが循環器系、腎系、代謝系、呼吸器系、骨系における様々な異常を呈することを見出し、NOSsが保護的役割を果たしていることを報告してきました。しかし、最近、NOSsは心筋梗塞では保護的役割を果たしていますが、脳梗塞では正反対の傷害的役割を果たしていることを明らかにしました。また、同じ臓器でも、NOSsの役割は病態によって異なること、つまり、肺臓器において、肺高血圧や肺線維化の病態ではNOSsは保護的に作用していますが、気管支喘息では逆に傷害的に作用していることを見出しました。これらは、産業医大呼吸器科との共同研究の成果です。私は長年に渡りNOの研究を行っていますが、最近NOSsの予期せぬ多様な役割を見出し、以前にも増して研究が面白いと感じています。私はこれらの研究成果を昨年の日循中国・四国合同地方会の教育講演および今年の日循総会のシンポジウムにおいて発表しました。

来年(平成29年)の2月10日(金)、11日(土)の2日間、琉球大学医学部において日本心脈管作動物質学会を開催します(学会のポスターを添付しています)。この学会は45年前の1972年に設立された歴史と伝統のある学会で、今年徳島大学循環器内科の佐田政隆教授が会長を務められました。来年の学会では、特別講演を北海道大学循環器内科の筒井裕之教授にお願いしています。筒井裕之教授とは、私が産業医大第2内科の研修医の時に麻生飯塚病院循環器内科と一緒に仕事をさせていただきました。シンポジウムでは、「腸内細菌と心血管病」「心脈管作動物質の橋渡し研究」「高血圧研究の新潮流」「代謝循環器研究の最前線」の4つのテーマについて第一線の研究者にご発表いただく予定です。第2内科の皆さん、是非ご参加下さい。沖縄で皆さんにお会い出来るのを、楽しみにしています。

第46回  
日本心脈管作動物質学会  
心臓研究のニューパラダイムと臨床医学への貢献

学 長	筒井 正 人	琉球大学 大学院 医学研究科 薬理学 教授
副学長	大屋 祐輔	琉球大学 大学院 医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学 教授
会 期	2017年2月10日(金)~11日(土)	
学 場	琉球大学医学部 臨床講義棟	

http://www.okinawa-congre.co.jp/jscr46



大阪大学大学院医学系研究科（大阪府吹田市）  
循環器内科学ハートセンター特任助教  
南 口 仁（平成 22 年入局）

産業医科大学第 2 内科学の皆様、お元気ですか。ご無沙汰しております。熊本地震から 1 ヶ月たちましたが、九州では地震の心配は少ないとだけ思っていただけにかなり驚きました。1 日も早い復興を祈っております。

2015 年度の大阪大学の不整脈関連診療実績はカテーテルアブレーション 81 例、電気生理検査 15 例、ペースメーカー植込み 74 例、ICD 植込み 20 例、CRT 植込み 26 例、ILR 植込み 7 例、エキシマレーザーを用いたリード抜去は 24 例でした。私事としては大阪大学に戻って（3 回目です）、はや 5 年たちましたが、今年の 3 月より不整脈グループの主任となりました。これまで以上に責任が重くなって大変になること間違いないと考えておりますが、何か 1 つでも成果を残したいと考えております。また、今年度から不整脈心電学会の評議員になることもできたので何か貢献できればいいなと思っています。

デバイス治療に関しては昨年に引き続き、植込みから遠隔モニタリングを用いたフォローアップ、リード抜去までを含めた“デバイス治療のトータルマネジメント”をかかげてやっております。遠隔モニタリングに関しては医師・看護師・臨床工学技士と共に今はやりの“チーム医療”の実践を目標としています。遠隔カンファも適宜開催しています。心不全で入院をくりかえす患者さんや補助人工心臓装着患者さんに対して、デバイスを用いたモニタリングをもう少しうまく活用できないかを検討中です。またエキシマレーザーを用いたリード抜去は昨年からはじめましたが、リード抜去を経験することでリードの種類による耐久性の違いを認識することができました。植込み時や電池交換時に皮膚圧迫壊死がおこらないかということを常に配慮する習慣も今まで以上につきました。また、今年の 2 月から S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）といって心臓内にリードを留置することなく除細動をかけることができるニューデバイスが日本でも使用可能となりましたが、早速 ICD 感染後の患者さんで使用してみました。

カテーテルアブレーション治療に関しては、3D マッピングシステムである CARTO システムの version がようやく新しくなり、Visitag が使えるようになりました。また、心房細動アブレーションで最近使用されているクライオバルーンもこの夏にはようやく導入できそうなメドがたちましたので、少し楽しみにしております。重症心不全に合併する不整脈のみならず、先天性心疾患に合併する不整脈に対しても、小児科・小児心臓血管外科と共に積極的にデバイス治療・アブレーション治療を検討するようになってきました。

最後に教育に関しては、日本内科学会の JMECC 院内開催にも携わり、院内の BLS/ACLS コースの代表もやっています。学生講義もたまにしていますが、何かと講義中に PHS がなったりと忙しくはしておりますが、今後とも引き続きご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



## 12. 教室職員紹介

### 教室職員配置図

第2内科学教室 (大学1号館2階)	
<p>資料室</p>  <p>松永 泰子</p>  <p>沖永 南</p>	<p>講師室</p>  <p>永富 宮子</p>
<p>准教授室</p>  <p>大庭千鶴子</p>	<p>カンファレンスルーム</p>  <p>玉利紗恵子</p>  <p>吉村 成子</p>  <p>上尾 好美</p>
<p>腎センター (大学病院 2F)</p>  <p>中村 初美</p>  <p>二村美菜子</p>	<p>心エコー室 (大学病院 2F)</p>  <p>花村 静香</p>
<p>不整脈先端治療学 (大学1号館 6F)</p>  <p>佐藤 智代</p>	



## 13. 関連施設便り

### 産業医科大学医学部 不整脈先端治療学講座

講師 河野 律子



不整脈先端治療学は、1号館6階にあります。7年目を迎えた本教室には安部治彦教授、河野律子といつも明るい秘書の佐藤智代さんがいます。6階の教室では、不整脈グループの勉強会なども行っております。

不整脈グループでは、現在いくつかの多施設共同臨床研究を進めています。世界的大規模臨床研究では、CRT 植込み患者を対象とした Predict-CRT 試験、失神患者に対して行われている SPRITELY 試験にも日本から唯一の施設として参加しています。SPRITELY 試験は、今後の失神診療の考え方に大きなインパクトを与える結果が導かれるものと期待しております。国内では SOS-Japan 研究（国内における失神患者の登録研究）、ICD 患者を対象とした Defense 研究では当院は事務局を担当し、多くの関連施設の先生方にもご協力いただきました。本年米国サンフランシスコで行われた Herat Rhythm 2016 で結果報告を行っております。また、本邦における冠動脈疾患を伴う ICD 植込み症例の実態調査（JID-CAD 研究）への登録も行っております。数年に渡り当院からも症例登録を行った Nippon-Storm 研究（ICD 患者の登録研究）では、その結果から ICD 患者の自動車運転制限が軽減されるなど、大きな影響を与える結果が導かれています。

更に、実務研修センター長の森晃爾教授を中心に行われている労災疾病臨床研究事業に安部治彦教授が分担研究者として加わり、患者の職場復帰時の「産業医と臨床医の連携」や「患者の両立支援」を考える機会を頂きました。がん患者や脳卒中患者での仕事との両立支援は、随分と開拓も進んできているようですが、循環器疾患患者、特に不整脈患者の両立支援は発展途上のようなようです。私たちは循環器内科で治療を受けて社会生活に戻る患者を日々送り出していますが、病気を抱えた患者が安心して社会生活を維持できることの重要性を感じています。8A 病棟の入院患者様、内科外来患者様にもインタビュー調査やアンケート調査にご協力いただき、その結果の解析も進んでいるところです。産業医科大学の一員だからこそできることが沢山あるのだらうと思います。

安部治彦教授は日本不整脈心電学会理事、そして同学会の社会問題対策委員長を担当されております。昨年は ICD 植込み患者の自動車運転制限期間に対して改訂がありました。また、公安委員会提出用の診断書が全国統一されました。本年4月の熊本の震災に対する学会での協力体制作りなど、これら全てに関与している社会問題対策委員会での仕事は多く、その結果によって社会全体がよくなっていけばよいと思います。

不整脈先端治療学では、様々なものを発信しています。私自身も、少しでも不整脈診療と患者様の役に立てるように前進していきたいと思っております。

(文責：河野律子)

## 産業医科大学病院 腎センター

部長・診療教授 田村 雅仁



早いもので今年も医局便りの時期となりました。腎グループと腎センターの近況を皆様に御報告させていただきます。

まずはおめでたいお話から。昨年は腎グループの中野陽子先生（旧姓藤本先生）と古野郁太郎先生の結婚披露宴がありました。今年も本田由美先生（旧姓古野先生）と中園和利先生の披露宴があり、どれもとても感動的な素晴らしい披露宴でした。さらに昨年は坂東健一郎先生も御結婚され、お子様が誕生されておられます。石松菜那先生、八尋和恵先生（旧姓柳沼先生）、石田大史先生、久間昭寛先生、尾辻健先生にもお子様が誕生され、おめでたいことが続いています。ワークライフバランスという言葉が最近言われるようになりましたが、産業医科大学の第2内科に入局すると、とても幸せな人生を送ることができるというように、学生の勧誘の際にも胸を張って言いたいと思います。

今年の5月の連休明けから、いよいよ産業医科大学若松病院で血液透析が開始されました。立ち上げにあたりましては尾辻教授には多大なる御指導をいただき、心より感謝申し上げます。産業医科大学や若松病院の事務方、腎グループOBや関連業者の方々にもお力添えを頂きましたお陰で開設にたどり着くことができたと思います。これまで若松区には透析施設が1か所しかありませんでしたが、今後は地域の中心となって透析医療に貢献できるものと確信しています。若松病院で透析を受けたいというご希望を既に多数頂いており、早々に軌道に乗り若松病院の経営に貢献できそうです。むしろ、すぐにパンクするのではないかと懸念しているぐらいです。

さて、最後に2017年の日本腹膜透析医学会総会についてです。3年前に大会長を拝命した時にはまだまだ先だと思っておりましたが、いよいよ来年に迫りお尻に火が着いてきました。現在、事務局長の宮本哲先生と副大会長の長野裕子副院長（看護部長）と鋭意準備中です。全国から北九州市へお越しいただくわけですから、記憶に残る素晴らしい学会にしたいとあれこれ策略中です。懇親会で私が着ぐるみを着て登場する案と、バンドの演奏を久し振りにする案（これでも昔はロックバンドのベーシストでした）を皆さんから提案していただきましたが、却下させていただきました。腹膜透析は若年者のみならず高齢者の在宅療法としても見直されており、今後の普及が期待されています。しかし、在宅療法であるがゆえの問題も多々あり、いかに在宅の高齢者を社会全体で支えていくのかを模索中です。高齢者向きの腹膜透析メニューを考えたり、訪問看護ステーションや往診をしていただける開業医の先生などを巻き込んで、「assisted PD」という新たなシステム構築したりと奮闘中です。

現在、本邦における維持透析患者数は32万人を超えています。さらに透析患者の超高齢化とともに合併症の増加も加わり、腎センターの稼働率は年々増加しています。重症の患者さんを多数みなければならぬという緊張感のもとで、腎グループの先生方や腎センターのスタッフの方々には日々ご苦勞をおかけしており本当に感謝しております。これからも最高レベルの医療を安全とともに患者様にお届けできるよう皆で頑張っていきたいと思います。

（文責：田村雅仁）



## 産業医科大学病院 臨床検査・輸血部

部長・診療教授 竹内 正明



皆様ご無沙汰しております。臨床検査・輸血部に異動し、早一年が過ぎました。この間、野原正信前技師長のおかげで何とかつつがなく過ごすことが出来ました。この場を借りて御礼を申し上げます。臨床検査・輸血部の人員は、医師は私を含め、3名と少ないのですが、臨床検査技師、アルバイトの方が約40名在籍する大所帯です。昨年個々の方をよく知るために、個人面談をしたのですが、その際一人の技師の方が言われたことが今でも心に残っています。臨床検査・輸血部は三世代の人々から構成されています。第一世代は産業医科大学創設時から検査部に所属し、現在まで検査部を支えてきた人たち、第二世代は産業医科大学衛生学科の卒業生で、現在検査部の仕事の中核をなしている人たち、第三世代は産業医科大学とは縁もゆかりもなく、他大学の衛生学部を卒業し、産業医科大学検査部に在籍するようになった若手新人たちです。検査部の現状と言えば、第一世代の人たちはこの5、6年の間に全ての方が随時定年退職し、第二世代の方の中から次期あるいは次次期技師長がでると思われる移行期に直面しています。また数年前までは検査部にはほとんど新人が入ることがなく、いびつな人口構成となっていたのですが、2、3年前より定年退職される方がでてきたため、その代わりに、毎年2名から3名程度の新人が入職するようになり、人口構成の若返りが図れるチャンスが来ています。この期を逃さず、10年後の検査部を見据え、現在屋根瓦の構築にいそしんでいます。ご存じの方も多いとは思いますが、人気のある基幹病院には毎年研修医が入り、一年前研修医だった先輩が新人研修医の面倒を見ます。一方一年前研修医だった先輩はその一年前に研修医だった一年上の先輩から指導を受けます。このような屋根瓦を構築することで土台のしっかりした指導体制を築くことが出来ると考えています。一方相対的に中堅技師が少ない現在の問題点に対しては、本年度一人中堅の技師に入職していただき、血管エコーの底上げを図る画策を進行させている最中です。彼は心エコーのみならず、血管エコーで非常に有名であり、彼が入職したことにより、彼と同年代、あるいは若手の生理機能検査技師の目の色が変わってきました。時間はかかると思いますが、徐々に血管エコーの質を高めていきたいと考えており、彼の頑張りに期待しているところです。私の仕事と言えば、会議、面会が増え、昔のように自由に心エコーをとる時間はなくなりましたが、生理機能検査のみならず、検体検査の適正化を図り、不必要な検査を減らすことで、検査技師の時間の確保、検査費用の軽減にも努めていきたいと思っています。同門の先生方、第2内科で働かれている先生方には今後も色々とお迷惑をおかけすることがあるとは思いますが、臨床検査・輸血部の向上に努力していく所存ですので、ますますのご指導、ご鞭撻の程、何とぞよろしくお願い申し上げます。



## 産業医科大学病院 集中治療部

講 師 二 瓶 俊 一 (前列左端)  
助 教 原 山 信 也 (後列中央右)  
修練指導医 尾 辻 健 (後列中央左)

同門の皆様方、いかがお過ごしでしょうか。

現在集中治療部では二瓶、原山がスタッフとして、また修練指導医（微生物学教室大学院生）として尾辻健が勤務しております。

ICU入室に関して、第2内科領域では、急性心筋梗塞、急性心不全、急性腎障害などの重症患者が多く入室されます。こうした症例の主治医となられた同門の先生方も数多くいらっしゃるかと存じます。先生方にとって、ICUはなじみの深い場所ではないでしょうか。しかしながら、医学生や研修医にとっては、ICUとは何か、イメージを描きにくい場所のようです。それは、集中治療の歴史まだ約40年と浅く、全国的にも集中治療専門医が少ない(平成25年8月現在で集中治療専門医は全国で984名)ことが影響しているのかもしれませんが。そのような中で、当院集中治療部では5名の集中治療専門医が在籍しており、福岡県内で集中治療専門医施設は10施設しかない専門医施設の一つとなっております。集中治療は、あらゆる臓器不全に対応しなければならず分野横断的な知識、技量が要求されます。とても幅広い分野であり、負担の大きい部分もありますが、逆に言えば、いろいろな可能性を秘めている領域だとも思います。もし同門の若い先生方の中で、集中治療を通して、循環器疾患、腎臓疾患を勉強してみたいという先生がいらっしゃいましたら是非当院ICUに来てください。

最後に、産業医科大学病院集中治療部は、まだまだ発展途上の医局です。同門の先生方におかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



## 産業医科大学病院 救急科（救急医学）

助教 岩瀧麻衣



2015年度は、4月からの半年間を穴井玲央先生、その後に岩瀧が救急科へ配属となりました。2015年度は、救急外来にCT検査室が併設されたことで、救急外来での診断や重症患者さんに対する迅速な治療の介入に大いに役立ちました。スタッフとしては、救急科3名（外科2名、泌尿器科1名）、第2内科1名、整形外科2名、専修医枠として、整形外科2名、集中治療部1名、精神科1名、産業医コース1名、研修医1-2名で構成されています。真弓教授を初め、これまでの諸先輩方の御尽力のお陰で、救急車の受け入れ台数は著明に増加しております。私が勤務させていただいた2015年10月以降は、重症の外傷症例が北九州市内から集まっており、重症外傷の初期対応など、内科医では遭遇しない加療に携わる機会をいただきました。2016年度からは、第2内科からは専修医の先生が救急科へ配属されるため、循環器・腎臓分野以外も幅広く学ぶことのできる良い機会になれることと思います。

前述しましたように、救急科はスタッフが少ない中で「救える命を救いたい」との思いから、以前に比して多くの救急車の受け入れや重症症例の加療を行っております。色々なご指摘も多々あるかとは存じますが、各専門科の負担を減らすことも考慮し、可能な限りの初療を行っております。今後とも、どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。





## 産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科

診療科長・准教授 春木伸彦



平成23年4月の開院より丸5年が経過した産業医大若松病院ですが、岡崎昌博先生、沼田哲也先生に続き、平成27年7月より3代目の診療科長として春木伸彦が赴任しました。また中俣潤一先生（病棟医長・助教）とともに、同年10月からは岩瀧麻衣先生（産業医大本院へ異動）の後任に穴井玲央先生（外来医長・助教）、岩垣端礼先生（産業医大本院へ異動）の後任に清水昭良先生（専門修練医）を迎え従来の4人体制で診療を行ってまいりました。平成28年4月からは穴井・清水両先生と入れ替わり、鍋嶋洋裕先生（専門修練医）、橋本博司先生（専門修練医）の新体制となりました。

当院開設から5年が経過しましたが、岡崎先生が種を撒かれ、沼田先生が水を与えて下さった土壌から、ようやく芽が出てきたところで私が引き継ぐ事になり、せっかく育った芽を摘むこと無く花を咲かすことができるか自信がありませんでした。しかし前述の若い先生達の頑張りがある、産業医科大学病院の後方支援としての役割のみならず、若松地区の基幹病院としての立ち位置が確立してきたという印象を持っています。当院は開設当初より「侵襲的治療・



検査」が出来ないことが弱点と言われてきましたが、私は逆に「非侵襲的に何ができるか・何をすべきかを考える」医療を実践する場として非常に良い環境だと思います。このような中で、循環器内科の診療の柱としては心不全・睡眠時無呼吸診療、心大血管リハビリテーションを行っています。心リハは開設当初から数えて延べ8700件を超え、県内有数の心リハ施設となりました。睡眠時無呼吸診療に関しても、心不全症例はほぼ全例でPSGを行うようにしており、昨年夏以降はひと月に10件ペースで検査をしています。それに伴いCPAP導入症例も着実に増加しています。また近隣の開業医の先生からの紹介も増えてきました。一方で、腎臓内科に関しては本年5月より人工透析室を開設し、血液透析を開始できることになりました。非常に短い準備期間にもかかわらず中俣先生を中心に透析チームを立ち上げ、10床のベッドで外来透析が始まりました。これにより若松病院腎臓内科の診療レベルが一層向上することが期待され、近隣の医療機関との連携をより密に図っていけると思われます。学生教育に関しても平成27年度は隔週のポリクリ総括ならびに頸動脈エコー実習を行ってきました。今年度は透析業務開始に伴う人的不足から本院に依頼しましたが、いずれ人的な問題がクリアできれば再開できるかもしれません。

最後になりましたが、今後も当院を温かい目で見守って頂ければ幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

## 産業生態科学研究所 職業性中毒学

講師 五十嵐 友紀



昨年から本年にかけて教室メンバーに変更がありました。昨年12月に Donald J. Wilson 先生が母国フィジーへ帰国し、本年4月より新しく小池渉先生と山田佳史先生の修練医の先生方を迎え入れました。当教室としては初めての修練医の加入で、教室全体が若返りしたような感じがします。現在上野晋教授および雪屋里絵秘書、そして私の合計5人で教室を運営しております。教室の研究テーマは、化学物質による毒性の評価とその発生機序の解明を掲げています。分子生物学的・生化学的・電気生理学的手法を用いた *in vitro* 系から、行動学的表現型を評価する *in vivo* 系にわたって体系的に解明し、産業医学分野における研究の確立が主要テーマと考えています。

私の現在の研究課題として、放射線が心臓刺激伝導系に与える影響の評価を挙げております。産業生態科学研究所内の共同研究として、同じ環境評価部門に属する放射線健康医学教室と動物実験を行っております。 $\gamma$ 線照射が心臓刺激伝導系に与える影響を評価するためマウスを用いて動物実験を行っていますが、照射後24時間でマウス心電図のPR間隔の延長や Conenxin43 の発現量の減少など、興味深い結果を得られております。

新たに平成27年度産業医学重点研究として、心臓カテーテル検査における放射線線量とDNA損傷ならびに解毒システムにおけるアスコルビン酸の機能解明を、社会保険直方病院の協力を得て実施しております。心臓カテーテル検査直前にアスコルビン酸を点滴静注し、検査後に損傷DNAの程度を生体試料（血液、尿、唾液）にて評価するという内容です。臨床研究は既に行われており、アスコルビン酸投与群において還元型グルタチオンの増加を認めるなど、アスコルビン酸が解毒システムに影響を及ぼしている可能性がある結果を得られております。この研究では直方病院の平川晴久先生、五十住和彦先生、鍋嶋洋裕先生には多大なるご協力を賜りました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。今後とも皆さまのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



写真左から、前列：上野、五十嵐。後列：雪屋、小池、山田の順



## NTT 西日本九州健康管理センタ（福岡市）

産業医 守下 敢（写真：右）  
渡部 太一（写真：左）

昨年4月より、前任の岩瀧先生にかわり NTT 西日本九州健康管理センタでお世話になっております渡部太一と申します。月日が経つのは早いもので、産業医業務も2年目に突入しました。当センタは佐々木まゆみ所長をはじめ、我々が2内科の大先輩である守下敢先生、産業医大精神科より出向されている先生と私の医師4名、更に12名のやさしい保健師さん及び事務スタッフの皆様で構成されており、非常にアットホームな職場です。NTT 西日本グループの九州エリア約2万名の社員を対象に、職場巡回、健康教育及び安全衛生委員会への出席等を行っております。



就任当初は、産業医学は未知の領域であり、あまりの社員数の多さ、扱う疾患や問題点の多様性のため少々困惑致しておりましたが、守下先生をはじめ諸先生方、スタッフの皆様にご温かく支えられながら、1年間勤務することが出来ました。

産業医業務はそれまで経験してきた臨床業務とは大きく内容が異なりました。臨床の現場では、患者さんをひとつの「生体」と認識し、各疾患そのものにアプローチしていくのが主体であるのに対し、産業保険の現場は、社員さんを「人間」としてとらえ、疾患のみならず社員さんの職場環境ときに家庭環境まで介入していくことが大きな違いです。社員さんとともに様々な問題を解決していくというのは産業医の仕事の醍醐味の一つのように思えます。病気を治療するだけで完結しない、その先にあるいかに健康的に「働き続ける」ことができるか、ということの重要性を身をもって認識することが出来ました。

一方で、すでに「疾患」を持って来られる患者さんを待つ立場の臨床医と違い、病気をもった社員さんに適切に受診を促すのは産業医業務の難しい側面です。今まで培った臨床経験を最大限活用し、専門外については常に勉強し、情報を常にアップデートし続けることが要求されます。特に近年は、メンタルヘルス疾患が重用視されており、精神科の先生にご指導を仰ぎながら日々勉強しています。

当センタは、博多の中心地に位置し、最寄りの地下鉄駅から徒歩3分の好立地にあります。スタッフの皆様も親切にしてくださり、とても働きやすい職場です。地方巡回においても、最初は長い移動時間に慣れずにいましたが、ご当地の美味しい食事を楽しみつつ、各地を飛び回っております。

また、膨大な社員データを用いて、リサーチをする機会も与えていただき、非常に充実した日々を送らせていただいております。佐々木所長をはじめ、スタッフの皆様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。まだ産業医の経験のない若い先生方で興味を持たれた先生がおられましたら、いつでも当センタに遊びにいらしてください。

（文責：渡部太一）



## 東海旅客鉄道株式会社健康管理センター（名古屋、静岡）

産業医 加来 京子、久間 昭寛、谷口 一成



東海旅客鉄道株式会社における産業医活動にて報告いたします。現在加来先生および、私、谷口が名古屋地区を担当し、久間先生は静岡地区を担当しております。私が昨年4月に当社赴任し、1年が経過いたしました。初めての産業医業務ということで当初は緊張の連続でしたが、先輩産業医の先生方のご指導もあり、充実した日々を過ごしております。定期的な健康診断、その事後措置、および担当箇所の職場巡視や安全衛生委員会への参加が主な業務ですが、それに加えて生活習慣病対策のプロジェクトチームの一員として、社員の健康管理に努めております。生活習慣病対策においては現在喫煙対策を主に行っており、喫煙率の低下をめざし衛生講話をはじめとした受動喫煙対策を行っております。もともと喫煙者だった私が喫煙対策を行うことに対し、はじめはやや抵抗がありましたが、今では禁煙を継続するモチベーションにもなっており、この活動をさせて頂き大変良かったなと感じております。

また、社員が在来線や新幹線の運転業務に安全に従事できるか国土交通省の政令をもとに、身体的適性を有しているか検討する特殊な業務があります。「医学適性検査」と呼ばれるもので、運転業務およびその周辺の業務に従事されている社員に対しては1年に1回検査を受けていただいております。鉄道の安全を医学的な面からサポートするという大変責任の大きい業務を行わせていただき、勉強することも多く、緊張感をもって業務を行っております。これまで臨床では経験できなかった、社員の生活背景や仕事上の問題などに向き合う大変貴重な経験をさせていただき、今後の医師人生の中での糧となるものと考えております。今後も社員の健康に少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

（文責：谷口一成）

## 新日鐵住金和歌山製鐵所（和歌山市） 安全健康室

産業医 樫山 国 宣（写真：前列左端）



### 【活動報告】

現在、新日鐵住金和歌山製鐵所 安全健康室に所属し、産業保健活動を行っています。

新日鐵住金和歌山製鐵所は和歌山市の紀ノ川河口に位置する従業員数約 12000 人の製鐵所で、所属している安全健康室が産業医活動の拠点となっています。新日鐵住金は和歌山製鐵所の他にも、大阪（堺市）や兵庫（尼崎市）に事業所が点在していて、ここでの健診業務もカバーしています。また、NS メディカルという健診センターとして、和歌山市内の近隣工場（花王）や中小企業の健診業務も請け負っている他、診療所として地域医療にも貢献しています。現在、産業医、看護師、保健師、歯科医師、臨床検査技師、放射線技師、事務を合わせると 70 名を超えるスタッフが在籍し、各職種が各部門と連携を組み、様々な健康施策を実施しています。

昨年 4 月に赴任して 1 年がたち、健診や巡視といった業務にも徐々に慣れてきました。産業医業務としては、昨年 12 月から厚生労働省の通達で、メンタルヘルスについてのストレスチェックが義務化されたため、現在はその対応に追われています。ストレスチェックの実施から、個人結果や集団結果の分析、高ストレス者の抽出や面談など、当初はメンタルヘルスについての知識がなかったため、戸惑うことも多かったのですが、新たなシステムの立ち上げに関わることができ、非常に経験になったと感じています 2 年目は、初年度の経験を生かし、担当事業所の安全衛生活動や従業員の健康管理に少しでも貢献できればと思います。



## 九州健康総合センター（北九州市八幡東区）

産業医 矢寺 靖子（写真：右）  
長谷川 恵美（写真：左）

九州健康総合センターは、新日本製鐵（現新日鐵住金）八幡製鉄所の健康管理グループを前身とし、昭和54年に企業外健康診断専門機関として分社化されました。現在は新日鐵住金八幡製鉄所をはじめ、北九州市内を中心に企業や事業所の総合的な健康管理を支援する目的で運営されています。2013年には市立八幡病院裏に移転し、新社屋となりました。美しく機能的な環境で、スタッフのみならず受診者の方々にも好評なようです。



当センターでは定期健康診断、特殊健康診断、人間ドック、労災二次健診、疾病管理健診、生活習慣病予防健診、THPなどを行っています。また、企業や市民センター、学校などへ健診バスで出向き、巡回健診や住民健診、学校健診なども行っています。センター内で可能なオプション検査も非常に多く、特に女性スタッフ・女性医師による婦人科健診やマンモグラフィー、乳腺エコーなどは受診者にとって非常に嬉しいのではないかと感じています。

私が九州健康総合センターに赴任してから早くも1年が経過しました。医局内は矢寺先生をはじめとして産業医大出身者が多く、何でも相談しやすくとても居心地の良い職場です。また、週に1回水曜日午後に第2内科の先生方に労災二次健診を担当していただいております。今後ともよろしく願いいたします。さらには今後も心電図異常や検尿異常などで産業医科大学病院や関連病院の先生方にお世話になることも多々あるかと思えます。その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：長谷川恵美）





## 西日本産業衛生会（北九州市八幡東区）

産業医 宮本 哲



西日本産業衛生会は職域健診をはじめとして地域健診、がん検診、人間ドックなどの健診業務全般を専門的に行っています。私が嘱託産業医として2年間勤務させて頂いた北九州産業衛生診療所では施設健診・バス健診に加えて産業医・保健師による労働衛生活動も行われています。北九州産業衛生診療所は本年2月に八幡東区東田地区に「八幡健診プラザ」として新築移転し広々とした綺麗な施設

になっています。

嘱託産業医の活動内容は健診事後面談、健康相談、過重労働面談、メンタル相談、職場巡視、安全衛生委員会出席、衛生講話です。事業場により産業医に求められる活動内容や出務頻度が異なり、上記の活動すべてを行うところもあれば委員会出席のみという事業場もあります。工場や役場、消防署、銀行など21箇所の事業場を担当させて頂きましたが、職場に出向いて仕事することは新鮮な経験でしたし、様々な職種の方々とふれ合うことができ面白かったです。

事業場の衛生活動に携わることで腎臓内科医として学ぶこともありました。例えば「健診で尿蛋白を指摘されていても自主的に受診される労働者は一握りしかいない」ということを知りました。2+以上の尿蛋白を数年間指摘されていても受診されることなく、産業医の面談を受けて初めて病院を受診し腎疾患が見つかるというケースがあります。二次健診を義務付けているところもありますがそのような至れり尽くせりの会社は少数派で、労働衛生活動によって適切に病院受診につなげることの重要性を感じました。また、産業医契約をしても健診事後面談の場が設けられていない事業場や産業医選任義務のない事業場では、健診で検尿異常を指摘されていても受診を勧められる機会がなく放置したままになっている労働者がたくさんいると推察されます。

最後に、多くのサポートを頂いた西日本産業衛生会の渡邊聖二先生を始め先輩産業医、保健師、臨床医局から派遣されている同僚の先生方に深く感謝申し上げます。



## 独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院（北九州市小倉南区） 循環器内科

久原孝博

2015年3月末で尾上武志先生、清水昭良先生が産業医科大学に帰任し、4月より卒後4年目の後藤大輔先生が大学より、卒後11年目の今村香奈子先生が九州労災病院門司メディカルセンターより当院に赴任しております。2015年度の九州労災病院は黒田智寛、久原孝博、今村香奈子、矢野聡、後藤大輔の常勤医5名と、毎週木曜日の午後、不整脈外来やカテーテルアブレーション、不整脈カンファレンス等で指導していただいている安部治彦先生の計6名でスタートしました。

### 1. 矢野先生倒れる

しかし2015年度になってすぐ、矢野聡先生が体調を崩され、しばらく入院・療養することとなりました。新年度になったばかりで当科で一番の戦力であった矢野先生が病欠されている間は忙しい状態が続きましたが、6月より大学から柳沼和恵先生が応援に来ていただき大変助かりました。幸い5月中旬より矢野先生が復帰され6月以降常勤医6人体制で診療にあたることとなりました。

### 2. 出産ラッシュ

2015年度は当院での出産ラッシュの年でした。まず、6月に後藤先生長女誕生、つづいて10月に矢野先生長男誕生、最後は2016年1月に柳沼先生長男誕生。特に柳沼先生は当院赴任中に出産された唯一の先生となりました。みなさんおめでとうございます。

### 3. 部長退職

当院で11年間循環器内科部長をされていた黒田先生が、2016年3月末で退職され小倉南区（当院の近くです）で開業されることになりました。当院在任中はわれわれ後進の指導を熱心にしていただき、また心臓リハビリテーションの開設や院内の電子カルテ導入などにも尽力していただきました。最後の年には内科部長という雑務までこなしていただきました。ほんとに11年間お疲れ様でした。

2015年度はいろいろとありましたが、今後も皆で力合わせて頑張っていきますので、これからもよろしくご指導お願い申し上げます。



2015年忘年会（循環器内科・OB・カテ室スタッフ）



独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院  
門司メディカルセンター（北九州市門司区）  
循環器内科

川上和伸



九州労災病院門司メディカルセンターは門司港レトロ地区から北に行った倉庫街の中にある病床数 250 床の病院です。

地域、当院の特徴として高齢化率が非常に高いことと、小倉に近いので循環器疾患の患者さんは小倉にある大きな病院に行ってしまうことがあります。また呼吸器内科と消化器内科がないため、当該疾患においては内科医全員でカバーし、重症患者は他院へ搬送しています。

当科での昨年度の実績は、PCI 53 例、EVT 8 例、ペースメーカー 15 例でした。心カテ装置は島津製作所の Trinius B12 と 2013 年発売の新しい装置を入れて頂いているため、これを活用すべく、心カテ症例の充実をはかりたいと考えている次第です。また前任の高津先生が心臓リハビリテーションを開始され、現在当科でのメインは心臓リハビリテーションとなっており、引き続き盛り上げて行きたいと思っております。

2016 年 3 月で高津先生、石田先生が異動となり、後任として九州労災病院から後藤大輔先生、熊本労災病院から川上が異動となりました。4 月より腎臓内科鐘江先生、循環器内科鈴木義之先生、後藤大輔先生、川上の 4 人体制となりました。門司港地区の地域医療の貢献のために今後も 4 人一丸となって奮発したいと考えております。同門の先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院（熊本県八代市）  
循環器内科

岡部 宏 樹

ただ、馬刺しを食べに行っただけだった。

2016年4月某日 21:27 大きな揺れが熊本県を襲いました。震源地の益城では多大なる被害が出ました。熊本市内に馬刺しを食べに来ていた私と Dr 長谷川も、ビールをこぼし、馬刺しをそれ以上食べられなくなるという多大な精神的ダメージを受けました。

熊本では、4月に起こった熊本地震で大きな被害を受けました。赴任早々、このような大災害に直面するとは思っていませんでしたが、被災時に病院が丸となり、地域の中核病院として避難者の受け入れ、被災者の診療、また倒壊の恐れのある病院からの入院患者の受け入れなどの難問に立ち向かいました。また、この時は熊本外の先生方や関係者の方々から心配の連絡や支援をいただき、人の温かみをすごく感じました。本当にありがとうございました。



あれから一ヶ月近く経ち、八代では余震はまだ続いています。普段通りの日常が戻りつつあります。震災直後は、日本全体の自粛モードの煽りを受け、趣味のランニングを自粛していたランニングマン松村先生と長谷川先生も最近では、メキメキと普段の走りを取り戻しているようです。

熊本労災病院では、部長で多趣味な松村先生を始め、下肢虚血専門・震災1番の被害者土井先生、虚血・ランニング専門阿部先生、不整脈・釣り・ゴルフ・ロードバイク専門高嶋先生、パワフルマルチな長谷川先生、熊大レジデント小森田先生といった素晴らしい先生方と楽しく充実した日々を送っています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

※ 補足

熊本労災病院は、熊本県南部の八代市に位置している中核病院の1つであり、日本循環器学会循環器研修施設、日本心血管インターベンション学会認定研修施設、不整脈研修施設です。虚血性心疾患、末梢血管、不整脈の治療に力を入れており、循環器専門医、CVIT 認定医、CVIT 専門医、不整脈専門医の取得が可能です。また、心臓血管外科が併設されており、連携をとって診療を行っています。





## 北九州市立八幡病院（北九州市八幡東区） 循環器科

小住 清志



北九州市立八幡病院のご紹介をさせていただきます。本病院は1930年、当時の八幡市の市立診療所として開設、1978年に現在地に移され約38年目となる総合病院です。公的病院として北九州市の成人・小児救急医療、災害医療の拠点として医療を提供するとともに、地域の基幹病院として地域医療に貢献しております。報道等でご存じの方も多いたと思いますが、建物の老朽化が顕著で、一部新耐震基準を満たしていないことから、2019年冬に、現在の敷地から通りを挟んで反対側の旧尾倉小学校、旧八幡図書館、八幡市民会館駐車場等への移転新築開院の予定です。この結果、病院の敷地面積はこれまでの約2倍、7階建、六角形の建物となるようです。

さて、当院循環器科ですが、昨年度同様、現在合計7名が常勤医として在籍しております。昨年度をもって、中園和利先生、眞田賢哉先生がそれぞれ産業医大、芦屋中央病院へと新天地に旅立たれた後、新たに本年度から、北野哲司先生、三浦俊哉先生がスタッフとして加わってくれました。2人とも、赴任してまだ間もないですが、ゴールデンウィーク期間中も休日返上し、集中治療室でIABPやPCPSなどが挿入された重症患者の診療を精力的に行なっておりました。今後の成長、活躍が楽しみな2人です。太崎副院長は昨年同様、多忙な日々を過ごされています。責務上のストレスも多いと思いますが、当院就任時より続けているジョギングの賜物か、大学にいらした頃より健康的に痩せられています。また、原田先生は統括診療部長、田中先生は主任診療部長としてそれぞれ重責を担っておられます。佐貫先生も、臨床、研究と多忙な環境の中、当院でも活躍されています。

昨年度も、当科は多種多様な症例に恵まれました。私が当院でレジデントとして勤務した約15年前と比較しても、高齢化の影響か、心不全に伴う救急搬送、入院例が目立ってきているように感じます。

今後とも、地域の先生方や患者様に信頼され続けるような良質な医療の提供を行っていきたく存じます。引き続きの皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



## 社会保険 直方病院(福岡県直方市) 循環器内科

平川 晴久



平成 24 年 8 月 1 日より社会保険筑豊病院は直方駅前に移転し、名称も社会保険直方病院へと改めて再出発しました。当院は、急性期病床 106 床、地域包括ケア病床 50 床の病院です。循環器内科 3 名（平成 28 年 4 月より早川裕紀先生が赴任）をはじめ、内科 6 名、外科 3 名、整形外科 2 名、泌尿器科 1 名、麻酔科 1 名の常勤医と耳鼻科、皮膚科、透析科、神経内科の非常勤医師が勤務しています。

私が平成 18 年 7 月にこちらに赴任してからもう 10 年になります。赴任して 1 年目で前部長から当科を引き継いだ時には、当科は近隣の先生からほとんど認知されていませんでした。患者紹介も突然なくなり、検査・治療件数も激減しました。まさにゼロからの出発でしたので、まず顔を知ってもらうことから始めようと思い、平成 12 年頃より 4~5 年間は年数回、開業医の先生 2~3 人ずつを病院に招待して紹介患者に関する治療報告や病院の施設案内等を行い、コミュニケーションを図ってきました。平成 26 年 4 月より五十住和彦先生が当院に赴任したのを機に循環器内科の救急体制を強化し、24 時間体制で冠動脈造影検査（CAG）や経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を行うようになりました。それに伴い救急隊からの搬送依頼や開業医からの紹介がよりスムーズに行えるように循環器ホットラインを導入し、消防本部や開業医を直接訪問して、そのことをアピールしました。また当科のホームページも刷新しました。

一昨年度からはインターベンションだけでなく、循環器医療全般にわたり高い医療水準を目指して診療を行っていることを認識してもらおうと、各方面で活躍されている先生をお招きして当科主催の研究会を開催しています。6 月に製鐵記念八幡病院脳卒中・神経センター長の藤本茂先生、10 月に小倉記念病院脳神経外科部長の定政信猛先生、1 月に久留米大学医療センター循環器内科教授の甲斐久史先生に講演して頂きました。本年度も数回の研究会を企画中です。

これらの取り組みが功を奏して、外来延患者数は平成 25 年度が 5,816 人（紹介 172 人）でしたが、平成 27 年度は 7,072 人（紹介 315 人）と外来患者数も増加しました。検査および治療件数も平成 25 年は CAG 175 例、PCI 30 例、経皮的末梢動脈インターベンション（PPI）7 例でしたが、平成 27 年には CAG 287 例、PCI 71 例、PPI 26 例と 2 年間で約 1.5~2.5 倍に増加し、診療実績も飛躍的に伸びました。

診療件数は順調に増加していますが、直方鞍手地区は他診療圏への患者流出が非常に多く、直方病院循環器内科はまだまだ発展途上の診療科です。今後も皆さんと一緒に、直方病院循環器内科を名実ともに、直鞍地区の中核を担う科となれるように発展させていきたいと考えています。どうぞご協力をよろしくお願い致します。



## 萩原中央病院（北九州市八幡西区） 循環器・心臓内科

三浦靖史



第2内科の同門の皆さん、いつも大変お世話になっております。あつという間の一年ぶりの御挨拶です。

産業医科大学の先生方には具合が悪くなった患者さんの急な転院、御加療の御願いを御快諾いただきありがとうございます。また大学の若い先生方には週末の日直、当直に御協力いただき大変ありがとうございます。近隣の同門の先生方には日々の診療に際し、患者さんを御紹介いただきありがとうございます。また、御迷惑もおかけしている事と存じますがこれからもよろしくお願い申し上げます。

萩原中央病院では理事長である冬野喜郎先生を中心に循環器・心臓内科、消化器科、呼吸器科、糖尿病・代謝内科、膠原病科、リハビリテーション科等の診療科を有する内科主体の病院です。病床数は現在120床。常勤医は現時点で11名。

呼吸器科は産業医大呼吸器科の矢寺和博教授をはじめ小田桂士先生、川端宏樹先生に外来診療をしていただき、また、糖尿病・代謝内科、膠原病科は産業医大1内科の鳥本桂一先生、黒住旭先生、元舞子先生、吉成紘子先生に外来診療をしていただいております。

循環器科の常勤医が9名で消化器科が当院の院長で居られる筋田和文先生を中心に2名。大腸ファイバーの件数は年間800件を超えます。ポリープ切除は365例（288）早期大腸癌切除（治癒切除）5例（16例）（カッコ内は2014年度）。

循環器科は同門の瀬川潤先生を中心に日々の診療を行っております。久留米大学から若い先生方も出向で勤務されており、今年岡部浩太先生が常勤にて勤務しており、とても優秀な若手です。心カテ件数も増え若い先生方には毎日沢山心カテをしてもらっています。岡崎先生もお元気に心カテ、外来、心臓リハビリと御活躍です。恒例の当院での診療実績をまず報告させていただきます。2015年度の心カテ件数は、冠動脈造影検査（CAG）の総数が561（622）件、冠動脈インターベンション（PCI）の件数が204（221）件でした。冠動脈MDCTにまわる件数が増え、心カテ件数自体は横ばいといったところです。PCIは初期成功率が99.0%、再狭窄率はPOBAのみの場合16.7%、BMSでは14.2%、DESでは3.4%です。年々、患者さんは変わらないのにPCIが難しくなっている印象は例年通りで、高齢で糖尿病合併の高度石灰化病変、高度屈曲病変、びまん性の患者さんが増えております。ガイドジラの使用をする頻度が増えている感じです。また、経皮的腎血管形成術（PTR）が21（7）例。経皮的四肢血管形成術（PTA）が26（21）例でした。アブレーションは10（14）例でした。また、ペースメーカー植え込み術は55（49）例ありました。心エコーは年間3800件を超え尾辻教授にも御指導いただいております。去年は当院の若手（？）の野田喜裕先生がCVIT（地方会）のYoung Investigator Awardを受賞しました。

萩原中央病院ゴルフ部も相変わらずですが、最近は時間的な余裕もなくなりクラブ活動が低迷しておりますので、また気合を入れなおして練習したいものです。結構忙しくて大変なところもありますが、スタッフは患者さんのためになればと思って働いている、いい病院と考えております。また、スタッフの高齢化に伴い私など老眼がすすんで細かい作業が大変です。ですから特に心カテがしたいと思っている若い先生が来ていただけますと沢山心カテできると思いますし、とてもありがたいです。その気があれば一声かけていただけますと幸いです。





地方独立行政法人 芦屋中央病院（福岡県遠賀郡芦屋町）  
腎 臓 内 科

眞 田 賢 哉



第2内科の同門の皆様、大変お世話になっております。前任の坂東先生より引継ぎ、平成28年4月より芦屋中央病院に赴任となりました。私の業務は一般内科・腎臓内科および透析医療の担当を行っています。昨年までは循環器内科の診療を行っていましたが、本年より腎臓内科医として勤務することとなり、一人職場でもあるため慌ただしい毎日ですが、腎センタースタッフと連携しながら診療を行っています。当院は医師数が少ないため、特にチーム医療の重要性を痛感しています。

芦屋中央病院は平成27年4月1日より地方独立行政法人に経営形態を移行し1年が経過しています。本年12月より電子カルテの導入が予定されており、更に平成30年3月には新病院への移転が計画されています。新病院は花見坂の運動公園内造成地に計画されており建設が始まろうという段階です。病院の大きな転換期であり、今後の病院の発展のために少しでも貢献できればと思っています。

現在医師数は消化器科4名、内科3名、外科2名、整形外科2名、泌尿器科1名、放射線科1名の計13名です。医師数が少なく、これまで通り多くの第2内科の先生方に支えていただいております。循環器外来や心臓リハビリテーションを月曜日から金曜日まで毎日行っており、心エコー検査では尾辻教授、竹内教授にも来ていただきご助言をいただいております。同門の先生方に日々支えていただいていることに大変感謝いたします。

当院腎センターは透析ベッド30床で運営しており、現在50名の外来維持透析と他科入院患者のバックアップ透析やショートステイ患者の透析を行っています。透析導入やPTAの症例数は少ないですが、スタッフと共に安全で信頼される医療を提供できるよう取り組んでいきたいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。





# 14. 医局関連行事

## 医生ヶ丘循環器病診連携会

福田 祥大

医生ヶ丘循環器病診連携会は、近隣の開業の先生を対象とした、実技講習を特徴とする講習会です。短めのレクチャーに続いて心エコー検査の実技講習を行います。心エコー検査は循環器疾患の診断や治療方針を決めるうえで極めて大切な検査ですが、残念なことに、検査をする医師または技師の技量によって画像が不明瞭になり、適切な検査結果が得られないことがあります。心エコー検査が不十分であれば、緊急を要する心疾患を見逃してしまう危険性があります。そこで、近隣の開業の先生に心エコー検査に直接触れていただき、心エコー検査で見べきポイントや注意点を知っていただきたいと考えています。

尾辻教授が講師で、全6回で1シリーズとなります。全6回に参加いただくことで主な循環器疾患の特徴的な心エコー検査を知ることができます。さらに、実技講習ではレクチャーで見たエコー画像を出す練習をします。実技講習は少人数制（3～4人で1グループに分かれます）で、できるだけ多くの時間、実技していただきたいと考えています。3～4か月毎の金曜日夜7時、産業医大の3階カンファレンスルームで開催しています。無料です。興味のある先生方はぜひ気軽にご参加ください。



平成 28 年 4 月 11 日 医生ヶ丘循環器病診連携会

## 産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会

園田 信成  
田村 雅仁

### 第27回 産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会（平成27年6月12日）

[症例検討]

「冠動脈分岐部病変に対する3D-OCTガイドステント留置術」

産業医科大学病院 循環器内科、腎臓内科 三浦 俊哉 先生



[教育講演]

「心臓弁膜症外科治療の現況」

産業医科大学病院 心臓血管外科 准教授 西村 陽介 先生



[特別講演]

「血管から見た心腎連関」

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学  
教授 大石 充 先生



### 第28回 産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会（平成27年9月11日）

[症例検討]

「多臓器不全を主体に来院し持続性心室頻拍を合併した動脈硬化性血管疾患の一例」

産業医科大学病院 循環器内科、腎臓内科 屏 壮史 先生



[教育講演]

「慢性腎臓病の外来管理」

産業医科大学病院 腎センター 講師 古野 由美 先生



[特別講演]

「糖尿病管理の現状と将来展望」

川崎医科大学 内科学 特任教授 加来 浩平 先生



## 第 29 回 産業医科大学循環器・腎臓病診連携会（平成 28 年 2 月 5 日）

第 29 回産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会が、平成 28 年 2 月 5 日にホテルクラウンパレス北九州で開催されました。まず、塚原慧太先生が「高齢腹膜透析患者に対し多職種による在宅支援を行い退院可能となった一例」の症例発表を行ないました。次いで、園田信成先生より「冠動脈インターベンション治療の Up-to-date」について教育講演を頂きました。最新の冠動脈インターベンション治療について大変分かりやすくお話し頂きました。

特別講演は大阪大学医学部教授の猪阪善隆先生でした。猪阪先生は昭和 63 年大阪大学医学部をご卒業され、大阪大学医学部附属病院や国立大阪病院などで研鑽され、大阪大学大学院、米国ユタ大学医学部腎臓・高血圧リサーチフェローなどの後、平成 16 年より大阪大学大学院病態情報内科学助手、准教授などを経て、平成 27 年より大阪大学腎臓内科学の初代教授にご就任されておられます。これまでに日本腎臓学会の大島賞など大変名誉のある賞を受賞されておられます。今回は「多発性嚢胞腎治療の新展開」というテーマで、基礎から日常診療に至ることまで、最新のトピックスとともに分かりやすくお話し頂きました。多発性嚢胞腎は本邦に約 3 万人いるといわれている最も多い遺伝性腎疾患です。2015 年 1 月より指定難病となり、患者様の医療費負担が大幅に軽減されました。トルバプタンは多発性嚢胞腎の進行を抑える唯一の治療薬ですが、大学病院などの指定医療機関でしか投与することができません。今回の御講演により連携施設からのご紹介が増え、この治療の恩恵を得る患者様がが増えていくことを期待しています。

（文責：田村雅仁）

### [ 症例検討 ]

「高齢腹膜透析患者に対し多職種による在宅支援を行い退院可能となった一例」

産業医科大学病院 循環器内科、腎臓内科 塚原 慧太 先生



### [ 教育講演 ]

「冠動脈インターベンション治療の Up - to - date」

産業医科大学 第 2 内科学 講師 園田 信成 先生



### [ 特別講演 ]

「多発性嚢胞腎治療の新展開」

大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 教授 猪阪 善隆 先生





## 産業医科大学若松病院循環器・腎臓病カンファレンス

春 木 伸 彦

### 第 8 回若松循環器・腎臓病カンファレンス（平成 27 年 5 月 14 日）

若松区内でご開業されている先生方と、当科医師との循環器・腎臓領域の学術交流を目的として発足された若松循環器・腎臓病カンファレンスは第 8 回を平成 27 年 5 月 14 日に若松医師会館で開催されました。今回は当科からの症例報告のみならず、大北内科循環器科医院の大北卓先生からも貴重な症例をご報告いただき、活発な討論を行うことができました。当科から症例報告 1 例、ミニレクチャーを行い、また Q&A コーナーについても開業医の先生よりご質問をいただき、大変好評でした。参加者は 14 名でした。

#### 症例報告 1 「救命し得た心室中隔穿孔の一例」

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科 岩瀧 麻衣 先生

#### 症例報告 2 「解離性大動脈瘤の 1 例」

大北内科循環器科医院 院長 大北 卓 先生

#### Q & A コーナー 「 $\omega$ 3 系脂肪酸製剤について」

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科 診療科長 沼田 哲也 先生

#### ミニレクチャー 「検尿のみかた」

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科 中俣 潤一 先生

### 第 9 回若松循環器・腎臓病カンファレンス（平成 27 年 12 月 10 日）

第 9 回若松循環器・腎臓病カンファレンスは平成 27 年 12 月 10 日に若松医師会館で開催されました。今回は症例報告 1 例に加え、腎臓病教育入院の紹介をこれまでのデータを交えてさせていただきました。また御参加頂いている先生方からの Q&A コーナーは、ループ利尿薬の使い分けについて回答させていただきました。さらに睡眠時無呼吸についてミニレクチャーを行い好評でした。参加者は 14 名でした。

#### 症例報告 1 「ACE 阻害薬投与後に低 Na 血症が遷延した高齢男性の一例」

産業医科大学病院 循環器内科・腎臓内科 岩垣 端礼 先生



#### 症例報告 2 「当院における腎臓病教育入院の紹介」

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科 中俣 潤一 先生



---

Q&A コーナー

「ループ利尿薬の使い分けについて」

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科 診療科長 春木 伸彦 先生

ミニレクチャー

「日常診療に潜む睡眠時無呼吸」

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科 診療科長 春木 伸彦 先生

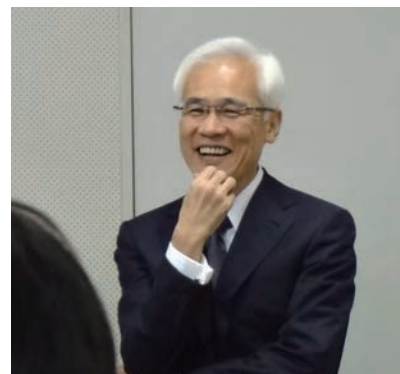


## 大学院講義

講義年月日：平成27年4月3日

講師：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科循環器病態制御外科学  
教授 江石 清行 先生

演題名：心臓を手術する脳



長崎大学心臓血管外科の江石清行教授を昨年呼びました。私は心臓外科医の話聞くのが好きで、弁膜症の病態を考える時にすごく参考になります。私がこれまでやってきた仕事に関心を持ってくださるのも心臓外科医が多いです。例えば私を講演に呼んで下さる場合、3回に1回は外科医からのお声がけです。しかし、心臓外科医が全般に私の意見に賛成であるという訳ではありません。「弁輪形成術後の僧帽弁後尖テザリング」「拡張期テザリングによる機能性僧帽弁狭窄症」「一次性僧帽弁逆流による二次性テザリング」という概念を発表してきましたが、多くの外科医から辛辣な意見をいただきました。私は自分が観察した心エコー画像所見から自分の意見に自信を持っていますが、辛辣な意見に反論するのはしばしば困難でした。私の視点（心エコー図画像から見た僧帽弁）と外科医の視点（術中所見から見た僧帽弁）が異なっており、外科医の意見を完全に理解することがしばしば困難です。このようなこともあり、私は外科医と話すのが好きです。自分の視点が広がると感じます。江石清行先生は、私の意見に批判的な代表的外科医です。江石先生は私と同じ年の鹿児島生まれで、私も江石先生も極めて頑固で、正直です（＝相手の意見が間違っていると思うと「あなたの意見は間違っている」とはっきり発言する）。このように私とはだいぶ意見が異なる外科医で、しかも手術は極めて優秀です。長崎大学で年間300例近く手術をされています。地方都市の国立大学病院として極めて立派な数字です。卓越した手術以外にこの数字はあり得ません。江石先生に「新しい心臓外科手術の考えかた」というコンセプトで大学院講義をしていただきました。「外科的に移植する僧帽弁リングにどのようなことを期待するのか?」、「人工腱索に何を期待するのか?」、「手術後の僧帽弁機能評価に何を重要視するのか?」等々、普段内科医として考えることができなかった視点からの考察をたくさん発表していただきました。特に心エコーグループにとって新たな研究アイデアの源泉になったと思います。長崎大学では素晴らしい手術をたくさんされており、心エコーを専門とする内科医も育てています。また、九州心臓弁膜症研究会を毎年主催される先生で私も毎年呼んでいただいています。今後も意見交換をする機会も多く、激論になっても、多くの勉強をさせていただける先生と思います。

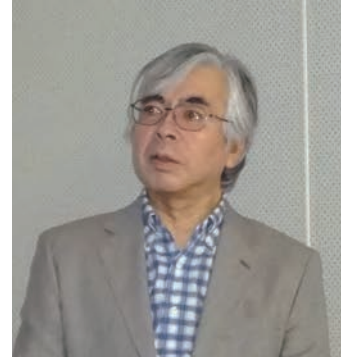
(文責：尾辻 豊)



講義年月日：平成 27 年 7 月 10 日

講 師：小倉記念病院 検査部 部長 井上 勝美 先生

演 題 名：下肢動脈病変の病理



小倉記念病院循環器内科の井上勝美先生に大学院講義をお願いいたしました。第2内科でも冠動脈インターベンション（PCI）や下肢動脈インターベンションを盛んに行っていますが、血管インターベンションには血管病理の理解が不可欠だと思ったからです。今回は冠動脈と下肢動脈の病理所見の違いが主な内容でした。血管が違うのでステントの意味合いが異なっているという内容でした。DESの登場により冠動脈インターベンションは今後増えませんが、下肢動脈インターベンションは今後も右肩上がりに増えます。井上先生の情報は今後さらに重要性を増すと思います。井上勝美先生は鹿児島大学の先輩で、私を大変可愛がって下さいました。忙しい最前線の病院で地道に研究を続けられる姿を見て自分の活力にさせていただいた事もあります。10年ほど前はコンピュータのプロジェクションを使わずスライドを使われる先生で一徹な印象を持っていました。さすがに今はコンピュータプロジェクションです。エネルギッシュな先生で現在も極めてお元気ですが、定年が近いのだそうです。私が研修医や若手医師のころ憧れて目指した鹿児島大学の先輩達も次々定年となりつつあります。当日は2内科で緊急PCIがあり、最も聞いて欲しい人が集まらなかった。井上先生にはさらに血管病理を極めていただいで再び大学院講義に来ていただきたいです。（文責：尾辻 豊）

講義年月日：平成 27 年 10 月 1 日

講 師：和歌山県立医科大学循環器内科 教授 赤阪 隆史 先生

演 題 名：冠循環評価の基礎と臨床

平成 27 年 10 月、和歌山県立医科大学 循環器内科 教授 赤阪隆史先生をお招きし、大学院講義が行われました。赤阪先生は心エコー、冠循環、イメージングなど幅広い分野でご活躍されておりますが、今回は冠循環をテーマにご講演頂きました。

講演は冠循環の基礎から始まり、冠血流予備能（CFR）、冠血流予備量比（FFR）、瞬時



血流予備量比 (iFR) などについて、これまでと、現状、今後の展望まで丁寧にお話し頂きました。これらの指標を用いて診療を行う意義と、注意点なども詳しく説明して頂き、FFRのカットオフ値として利用されている0.75は心筋虚血の指標であるが、0.80は心筋虚血の指標ではなく、PCIを行うか否かの指標であり、今後のPCIの発展次第ではその指標は変動し得るという内容については、誤解されている先生方も多かったのではないのでしょうか。また、最初から最後まで倫理的かつわかりやすく、初学者にとっても非常に有意義な講義だったと思います。

講義の後に、白浜で行われた懇親会でも、赤阪先生の学会などでは聞くことが出来ないお話をたくさん聞かせて頂いて、有意義な時間となりました。

高見浩仁 (文責：園田信成)



講義年月日：平成 27 年 10 月 9 日

講 師：東京ベイ・浦安市川医療センター

ハートセンター長 渡辺 弘之 先生

演 題 名：弁膜症新時代 心エコー図とハートチーム



東京ベイ・浦安市川医療センターのハートセンター長の渡辺弘之先生をお招きし、「弁膜症新時代 心エコー図とハートチーム」をテーマに大学院講義を行って頂きました。渡辺先生は心エコー、弁膜症を専門としておられ、日本だけでなく海外の学会や研究会でもよく講演されています。今回は臨床家としての立場から、心血管疾患をもつ患者さんに対して問診や身体所見を十分にとることの重要性を心エコー画像をまじえながら、お話して頂きました。また、榊原記念病院や東京ベイ・浦安市川医療センターと数多く心臓血管外科手術を行っている施設でハートチームを立ち上げてきた自身の経験をもとに、弁膜症の新知見や新しい治療法が普及してきている近年において、ハートチームの必要性を分かりやすく解説して頂きました。心臓血管外科の手術には、いつも自ら術中経食道心エコーを行い、そういった関わりの中で外科の先生との信頼関係築いていったお話は特に印象的でした。ともすれば、研究的な内容が多くなりがちな大学院講義ですが、今回は臨床の場を中心とした講義が多く、参加した若い先生やコメディカルの方も理解がしやすかったのではないかと思います。講義の後の懇親会は、築百年をこえる日本家屋のちゃんこ鍋屋で行い、店の雰囲気、料理を楽しみながら、親睦を深めることができました。

(文責：永田泰史)

講義年月日：平成 27 年 10 月 30 日

講 師：弘前大学大学院医学研究科高血圧・脳卒中内科学

准教授 木村 正臣 先生

演 題 名：心房細動非薬物治療

平成 27 年 10 月 30 日（金）、弘前大学の木村正臣先生をお招きして「心房細動の非薬物治療」をテーマにご講演頂きました。木村先生は昨年春 2 週間ほど心房細動のカテーテルアブレーションの技術を学ぶ為、弘前大学で研修させて頂いた際に技術を余すところなくご指導頂いた先生です。今回は大学院講義に先立ちまして、お昼から発作性心房細動の症例と一緒にアブレーション頂き、多くのご経験とデータを基にして改善を加えた焼灼方法を学ぶことが出来ました。その洗練されたカテーテル操作はアブレーションに携わっている Dr. にとって非常に勉強になったと思います。症例後の講義では、現在弘前大学から発信し当院でも実践している Visi-tag と



contact force を用いた心房細動のアブレーションに関して、その原理を理解するのに必要な基礎的知識から実際の症例への適応、克服すべき課題について多くの情報をご講演頂きました。これまでの肺静脈隔離法は、解剖学的情報を Virtual な世界に移し、コンピューターグラフィックスの中でカテーテルを操作する為、現実の位置とのギャップや壁面への焼灼効果との乖離がありましたが、最新のテクノロジーを用いることによりカテーテル操作が安全確実となるのみならず、実際の臨床成績も改善することを示して頂きました。今後のアブレーション手技の標準化に向けた大きな一歩と考えます。その後の懇親会では臨床・研究のみならず、留学生活・趣味や家庭の話で盛り上がり、遅くまでお付き合い頂きました。若手の先生にも大変刺激的な濃い一日であったと思います。この場をお借りいたしまして木村先生には厚く御礼申し上げます。

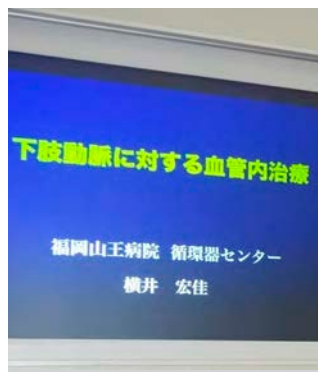
（文責：荻ノ沢泰司）

講義年月日：平成 27 年 11 月 17 日

講 師：福岡山王病院 循環器内科 循環器センター長 横井宏佳先生

演 題 名：下肢動脈に対する血管内治療

平成 27 年 11 月、福岡山王病院 循環器内科 循環器センター長 横井宏佳先生をお招きし、大学院講義が行われました。横井先生は小倉記念病院にて冠動脈疾患のみならず末梢動脈疾患（PAD）にも数多く携われてきており、福岡山王病院に移られてからも、全国でその経験を広めておられます。その中でも今回は PAD をテーマにご講演頂きました。



講義は最初から最後まで熱気に溢れるものとなり、聴講した先生方にもその熱気が伝わったことでしょう。PAD における日本の現状と海外との立ち位置の違いなどから始まり、実際に経験された症例やそれをまとめたデータも含め、非常に有意義な内容であり、かつ幅広くご講演頂いたため、時間いっぱい熱烈講義となりました。学会や研究会などでも熱い講演を度々拝聴していましたが、間近での講



義はより鮮烈なものでした。PADに対するインターベンションに携わる先生方は、その熱意に負けな  
いように頑張らなければならないと、気を引き締めたことでしょう。

講義の後の親睦会でも、これまでの経験などをざっくばらんにお話し頂き、ご高名な横井先生の人柄  
なども少し垣間見えたひと時となりました。

高見浩仁（文責：園田信成）



講義年月日：平成 28 年 1 月 29 日

講 師：九州大学循環器病未来医療研究センター

未来心血管治療学共同研究部門 准教授 岸 拓弥 先生

演 題 名：心不全とは脳による循環恒常性維持システム不全である  
～脳は何を見て何を守ろうとしているのか～

九州大学循環器病未来医療研究センター 未来心血管治療学共同研究部門  
准教授の岸拓弥先生をお招きし大学院講義が行われました。岸先生は平成 9  
年九州大学ご卒業です。九州大学循環器内科前教授である砂川賢二先生のも  
と、数多くの研究を行い、論文発表、学会活動を精力的に行われておられま  
した。現職に就かれてからは、脳を中心とした生体動的恒常性維持システム  
の解明、交感神経活性化の脳内機序、脳をターゲットとした循環器疾患治療  
法の開発、といった研究テーマでご活躍されておられます。「心不全とは脳  
による循環恒常性維持システム不全である」という革新的なテーマでご講演  
いただきました。高血圧や心不全の原因は過剰かつ不適切な交感神経活性化



であり、交感神経活動を規定しているのは  
「脳」、特に脳延髄にある頭側延髄腹外側野であ  
る、として我々循環器内科医でさえ聞き慣れな  
い内容でしたが、これまでの岸先生の研究活動  
をわかりやすくご講演くださいました。ホリエ  
モンとは高校の同級生という事で二人のエピ  
ソードを織り交ぜ、木村拓哉と名前が同じとい  
う事をネタに渾身のギャグスライドで締めて下  
さるなど、非常に楽しく有意義な大学院講義と  
なりました。（文責：林 篤志）

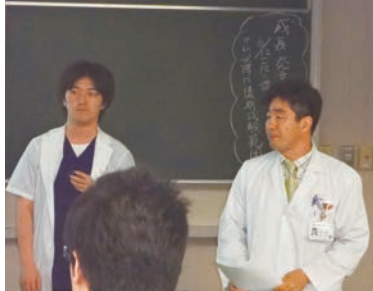
## 内科合同クリニカルカンファレンス

第 443 回内科合同クリニカルカンファレンス

平成 27 年 6 月 16 日

テーマ：「トルバプタンによる多発性嚢胞腎の治療」

産業医科大学病院 循環器内科、腎臓内科 上野啓通 先生  
産業医科大学 第 2 内科学 芹野良太 先生  
産業医科大学病院 腎センター 田村雅仁 先生



第 449 回内科合同クリニカルカンファレンス

平成 28 年 1 月 19 日

テーマ：「抗血栓療法の現状と今後の展望」

産業医科大学病院 循環器内科、腎臓内科 三浦俊哉 先生  
産業医科大学病院 循環器内科、腎臓内科 渡邊泰生 先生  
産業医科大学 第 2 内科学 村岡秀崇 先生





## 医局関連行事写真集

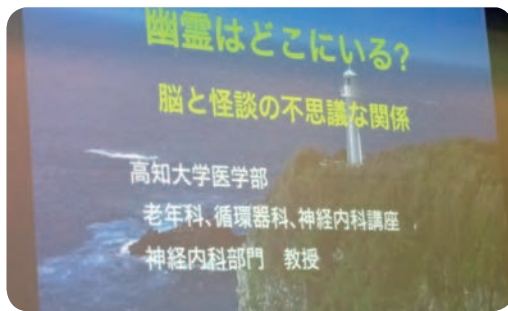
\*\*\*\*\* 平成27年6月19日 竹内正明先生 田村雅仁先生 診療教授就任祝賀会 \*\*\*\*\*







研修医、新教室員の紹介



特別講演「幽霊はどこにいる？」  
高知大学医学部老年科、循環器科、神経内科講座  
神経内科 教授 古谷 博和 先生



第 22 回黒岩賞：永田泰史 先生



\*\*\*\*\*

平成 27 年 12 月 18 日 第 2 内科忘年会 会場：金銅

\*\*\*\*\*



\*\*\*\*\*

平成 28 年 3 月 28 日 異動の医師 送別会

\*\*\*\*\*





# あ と が き



2016年7月末で私が産業医大に赴任して丸10年です。定年まで6年を切りました。本当に早く感じます。これまで教育・臨床・研究を発展させて来たか？疑問・課題が残ります。しかし、課題があるからそれを克服できれば幸せになれます。課題はむしろ喜ぶべき状態です。教育は医学教育の国際認証という大きな課題があります。医学部長・教務部長たちが方向性を示すでしょうからそれに向かってできることをやるだけです。そんなに迷いはありません。臨床に関しては活性化されてきたとは思いますが、大動脈ステントや肺高血圧インターベンション等、手つかずの分野が残っています。2内科には若手医師でモチベーションの高い人材も多く、必ず新しい分野を開拓できるものと考えています。研究に関しても医局員はコンスタントに学位をとっていますし、課題はオンリーワンの研究を目指すことです。これも可能と思います。日本の大学全体が厳しい状況にある中、産業医大では病院の建て替えをどのように成功させるか？が当面の最大の課題です。しかし、東京にある大学病院を見たりすると狭い土地の中にビルが林立しています。建て替えは相当難しい筈です。産業医大では幸いに土地は十分で恵まれています。これも職員が結集すれば必ず成功すると思います。第2内科としては新病院でさらに発展する方策を考える必要がありますが、若手医師の成長で可能と思います。このように第2内科学に課題は多いですが、必ずや達成できるものと思います。これまで以上にご支援・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

平成28年7月 尾 辻 豊

## 産業医科大学第2内科学教室便り 第9号

平成28年7月 発行

発行編集 産業医科大学医学部第2内科学教室  
北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号  
TEL 093-691-7436  
FAX 093-691-6913  
[http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/2nai/intro\\_j.html](http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/2nai/intro_j.html)

印刷 株式会社 ペイジ  
北九州市若松区青葉台西六丁目2番9号  
TEL 093-701-6637 FAX 093-701-6638



# 15. 2015年度 業績集

## ◇ 1. 原 著(英文) ◇

1. Nakanishi K, **Fukuda S**, Yamashita H, Uetsuhara T, Sakamoto A, Yamasaki K, Kosaka M, Shirai N, Uono H, Yoshikawa J, **Otsuji Y**, Shimada K.  
Detection of deep venous thrombosis using a Pocket-Size ultrasound imaging device. JACC Cardiovasc Imaging 2015 (Epub ahead of print)
2. Nomoto Y, Tsurugida M, Kihara K, Miyauchi E, Kosedo I, Yuasa T, **Otsuji Y**, Ohishi M.  
Attenuated early diastolic interventricular septum bulging by pulmonary hypertension due to later developed aortic regurgitation.  
J Echocardiogr 2015; 13: 110-2.
3. Yamashita E, **Takeuchi M**, Seo Y, Izumo M, Ishizu T, Sato K, Suzuki K, Akashi YJ, Aonuma K, **Otsuji Y**, Oshima S.  
Prognostic value of paradoxical low-gradient severe aortic stenosis in Japan: Japanese Multicenter Aortic Stenosis Study, Retrospective (JUST-R) Registry.  
J Cardiol 2015; 65: 360-8.
4. **Takeuchi M**, **Kuwaki H**, Wu VC, **Otsuji Y**.  
Reply: Is new grade Ia of diastolic dysfunction relevant at the population level?  
JACC Cardiovasc Imaging 2015; 8: 230-1.
5. Morris DA, **Takeuchi M**, Krisper M, Köhncke C, Bekfani T, Carstensen T, Hassfeld S, Dorenkamp M, **Otani K**, Takigiku K, Izumi C, Yuda S, Sakata K, Ohte N, Tanabe K, Osmanoglou E, Kühnle Y, Dungen HD, Nakatani S, **Otsuji Y**, Haverkamp W, Boldt LH.  
Normal values and clinical relevance of left atrial myocardial function analysed by speckle-tracking echocardiography: multicentre study.  
Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2015; 16: 364-72.
6. **Fukuda S**, Watanabe H, Iwakura K, Daimon M, Ito H, Yoshikata J.  
Multicenter investigations of the prevalence of abdominal aortic aneurysm in elderly Japanese patients with hypertension: the AAA Japan Study.  
Circ J 2015; 79: 524-9.
7. Nakanishi K, **Fukuda S**, Watanabe H, Seo Y, Mahara K, Hyodo E, Otsuka K, Ishizu T, Shimada K, Sumiyoshi T, Aonuma K, Tomoike H, Yoshikawa J.  
The utility of fully automated real-time three-dimensional echocardiography in the evaluation of left ventricular diastolic function.  
J Cardiol 2015; 66: 50-6.

- 
8. Nakanishi K, **Fukuda S**, Tanaka A, Otsuka K, Taguchi H, Yoshikawa J, Shimada K.  
Epicardial adipose tissue accumulation is associated with renal dysfunction and coronary plaque morphology on multidetector computed tomographic study.  
Circ J 2015; 80: 196-201.
  9. Nakazono A, **Oginosawa Y, Takeuchi M, Watabe T, Sonoda S, Fukuda S, Otsuji Y**.  
Left atrial appendage thrombosis in a patient with sinus rhythm and left atrial appendage dysfunction.  
J of Echocardiography 2015; 13: 157-8.
  10. Harrell DT, Ashihara T, Ishikawa T, Tominaga I, Mazzanti A, Takahashi K, **Oginosawa Y, Abe H**, Maemura K, Sumitomo N, Uno K, Takano M, Priori SG, Makita N.  
Genotype-dependent differences in age of manifestation and arrhythmia complications in short QT syndrome.  
Int J Cardiol 2015; 190: 393-402.
  11. **Nagata Y, Takeuchi M**, Mizukoshi K, Wu VC-C, Lin FC, Negishi K, Nakatani S, **Otsuji Y**.  
Intervendor variability of two-dimensional strain using vendor-specific and vendor-independent software.  
J Am Soc Echocardiogr 2015; 28: 630-41.
  12. Nakayama M, Ishida M, Ogihara M, Hanaoka K, **Tamura M**, Kanai H, Tonozuka Y, Marshall MR.  
Social functioning and socioeconomic changes after introduction of regular dialysis treatment and impact of dialysis modality: A multi-centre survey of Japanese patients.  
Nephrology 2015; 20: 523-30.
  13. Ishizaki J, Saito K, Nawata M, Mizuno Y, Tokunaga M, Sawamukai N, **Tamura M**, Hirata S, Yamaoka K, Hasegawa H, Tanaka Y.  
Low complements and high titre of anti-Sm antibody as predictors of histopathologically Proven silent lupus nephritis without abnormal urinalysis in patients with systemic lupus Erythematosus.  
Rheumatology (Oxford) 2015; 54: 405-12.
  14. **Sonoda S, Otsuji Y**.  
Do two eyes really see more than one? - Intravascular ultrasound and optical coherence tomography -.  
Circ J 2015; 79: 1891-92.
  15. Shimizu A, Mitsuhashi T, Nitta T, Mitamura H, Kurita T, **Abe H**, Nakazato Y, Sumitomo N, Kadota K, Kimura K, Okumura K.  
Japan implantable devices in coronary artery disease (JID-CAD): study design.  
J Arrhythmia 2015; 31: 81-6.
  16. Harrell DT, Ashihara T, Ishikawa T, Tominaga I, Mazzanti A, Komiya N, Takahashi K, Oginosawa Y, **Abe H**, Maemura K, Sumitomo N, Uno K, Takano M, Priori AG, Makita N:  
Genotype-dependent differences in age of manifestation and arrhythmia complications observed in short QT syndrome.  
Int J Cardiol 2015; 190: 393-402.

- 
17. Kenny RA, Brignole M, Dan GA, Deharo JC, van Dijk JG, Doherty C, Hamdam M, Moya A, Parry SW, Sutton R, Ungar A, Wieling W, Asgari M, Baron-Esquivias G, Blanc JJ, Casagrande I, Cunningham C, Fedorowski A, Furlan R, Gall N, De Lange FJ, McMahon G, Mitro P, Pietrucha A, Podoleanu C, Rabbie A, Benditt DG, Krahn A, Morillo CA, Olshansky B, Raj S, Sheldon R, Shen WK, Sun B, Hachul D, **Abe H**, Furukawa T, Gorenk B, Lip GYH, Glikson M, Ritter P, Hurwitz J, Macfadyen R, Rankin A, Mont L, Svendsen J, Kusumoto F, Cohen M, Savelieva I.  
Syncope Unit: rationale and requirement-the European Heart Rhythm Association position statement endorsed by Heart Rhythm Society.  
Europace 2015, 17: 1325-40.
18. **Kohno R, Abe H**, Nakajima H, **Hayashi K, Oginosawa Y**, Benditt DG.  
Effects of right ventricular pacing sites on blood pressure variation in upright posture: a comparison of septal versus apical pacing sites.  
Europace 2016 (In press)
19. Komatsu H, Sato Y, **Miyamoto T, Tamura M**, Nakata T, Tomo T, Nishino T, **Miyazaki M**, Fujimoto S.  
Significance of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy for IgA nephropathy with mild proteinuria.  
Clin Exp Nephrol 2016; 20: 94-102.
20. **Ishimatsu N, Miyamoto T, Ueno H, Hasegawa E, Kuma A, Fujimoto Y, Bando K, Nakamata J, Furuno Y, Serino R, Baba R**, Morimoto H, Doi Y, **Tamura M, Otsuji Y**.  
High glucose concentration-induced expression of pentraxin-3 in a rat model of continuous peritoneal dialysis.  
Histol Histopathol 2016; 15: 11756. (Epub ahead of print)
21. **Miyamoto T**, Nishino T, Nakata T, Sato Y, Komatsu H, Uramatsu T, **Ishimatsu N**, Ishida K, **Serino R, Otsuji Y, Miyazaki M**, Tomo T, **Tamura M**, Fujimoto Y.  
Impact of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy on immunoglobulin A nephropathy depending on histological classification:a multicenter study.  
Clin Exp Nephrol 2016; 10: 50-7.
22. **Kuma A, Tamura M, Otsuji Y**.  
Mechanism of and therapy for kidney fibrosis.  
J UOEH 2016; 38: 25-34.
23. Izumo M, **Takeuchi M**, Seo Y, Yamashita E, Suzuki K, Ishizu T, Sato K, Oshima S, Aonuma K, **Otsuji Y**, Akashi YJ.  
Prognostic implications in patients with symptomatic aortic stenosis and preserved ejection fraction: Japanese multicenter aortic stenosis, retrospective (JUST-R) registry.  
J Cardiol 2016 (Epub ahead of print)



- 
24. Morris DA, Krisper M, Nakatani S, Köhncke C, **Otsuji Y**, Belyavskiy E, Radha Krishnan AK, Kropf M, Osmanoglou E, Boldt LH, Blaschke F, Edelmann F, Haverkamp W, Tschöpe C, Pieske-Kraigher E, Pieske B, **Takeuchi M**.  
Normal range and usefulness of right ventricular systolic strain to detect subtle right ventricular systolic abnormalities in patients with heart failure: a multicentre study.  
Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2016 (Epub ahead of print)
25. Mizukoshi K, **Takeuchi M**, **Nagata Y**, Addetia K, Lang RM.  
Normal values of left ventricular mass index assessed by transthoracic Three-Dimensional echocardiography.  
J Am Soc Echocardiogr 2016; 29: 51-61.
26. **Takami H**, **Sonoda S**, **Muraoka Y**, **Sanuki Y**, **Kashiyama K**, **Fukuda S**, **Oginosawa Y**, **Tsuda Y**, **Araki M**, **Otsuji Y**.  
Impact of additional intracoronary nicorandil administration during fractional flow reserve measurement with intravenous adenosine 5'-triphosphate infusion.  
J Cardiol 2016 (In press)
27. **Kohno R**, **Abe H**, Nakajima H, **Hayashi K**, **Oginosawa Y**, Benditt DG.  
Effects of right ventricular pacing sites on blood pressure variation in upright posture: a comparison of septal vs. apical pacing sites.  
Europace 2016 (In press)
28. Kuramitsu S, Kazuno Y, **Sonoda S**, Domei T, Jinnouchi H, Yamaji K, Soga Y, Shirai S, Ando K, Saito S.  
Vascular response to bioresorbable polymer sirolimus-eluting stent vs. permanent polymer everolimus-eluting stent at 9-month follow-up: an optical coherence tomography sub-study from the CENTURY II trial.  
Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2016; 17: 34-40.
29. Sunagawa O, Nakamura M, Hokama R, Miyara T, Taba Y, Touma T, **Sonoda S** (Acknowledgments)  
A case of percutaneous coronary intervention for treatment of iatrogenic chronic total occlusion of the left circumflex artery after mitral valve repair.  
Cardiovasc Interv Ther 2016 (Epub ahead of print)
30. Nakashima T, Noguchi T, Haruta S, Yamamoto Y, Oshima S, Nakao K, Taniguchi Y, Yamaguchi J, Tsuchihashi K, Seki A, Kawasaki T, Uchida T, Omura N, Kikuchi M, Kimura K, Ogawa H, Miyazaki S, Yasuda S, **Sonoda S** (investigators)  
Prognostic impact of spontaneous coronary artery dissection in young female patients with acute myocardial infarction: A report from the Angina Pectoris-Myocardial Infarction Multicenter Investigators in Japan.  
Int J Cardiol 2016; 15; 207: 341-8.
31. Ueda A, **Oginosawa Y**, Soejima K, **Abe H**, **Kohno R**, **Ohe H**, Maeda A, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Miyakoshi M, Miwa Y, Togashi I, Sato T, Yoshino H.  
Outcomes of single- or dual-chamber implantable cardioverter defibrillator systems in Japanese patients.  
J of Arrhythmia 2016; 32: 89-94.

---

## ◇◇ 2. 原 著(和文) ◇◇

1. **河野律子, 萩ノ沢泰司, 林 克英, 大江学治, 高橋正雄, 安部治彦.**  
突然死予防の最新デバイス.  
心電図 2015; 35: 227-37.
2. **安部治彦, 河野律子, 萩ノ沢泰司.**  
ヒューマンファクターと安全の接点: 医学的側面から.  
安全衛生コンサルタント 2015; 35: 44-8.
3. **安部治彦.**  
黒住論文に対するEditorial Comment.  
心臓 2015; 47: 809-9.
4. **安部治彦.**  
心臓突然死と一過性意識消失・失神発作.  
感染防止 2015; 25: 1-5.
5. **鈴木義之, 荒木 優, 園田信成, 石倉龍太, 久原聡志, 佐伯 覚, 尾辻 豊.**  
外来型心臓リハビリテーションの継続はST上昇型急性心筋梗塞患者の血中エイコサペンタエン酸/アラキドン酸比を改善する.  
心臓リハビリテーション 2016; 21: 213-7.
6. **久間昭寛, 田村雅仁, 尾辻 豊.**  
腎繊維化の機序と治療.  
産業医科大学雑誌 2016; 38: 25-34.

## ◇◇ 3. 著 書 ◇◇

1. **園田信成.**  
サンプルサイズ決定、データ収集.  
国際学会発表・英語論文作成 成功の秘訣. (村松俊哉 編集)  
南江堂 2015; 21-4.
2. **福山梓子, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
三尖弁閉鎖不全症.  
動画でわかる実践的心エコー入門. (小室一成 編集)  
中山書店 2015; 122-4.
3. **尾上武志, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
肺動脈弁狭窄症・肺動脈弁閉鎖不全症.  
動画でわかる実践的心エコー入門. (小室一成 編集)  
中山書店 2015; 125-8.

- 
4. 中園朱実, 福田祥大, 尾辻 豊.  
心臓内血栓.  
動画でわかる実践的心エコー入門. (小室一成 編集)  
中山書店 2015; 278-81.
  5. 河野 靖, 福田祥大, 尾辻 豊.  
ポケットエコーの活用.  
動画でわかる実践的心エコー入門. (小室一成 編集)  
中山書店 2015; 282-86.
  6. 安部治彦.  
携帯型伝送心電図.  
徹底解説! 心電図 - 基礎から臨床まで - (森 博愛、丸山 徹 編集)  
医学書院 2015; 246-48.
  7. 河野律子.  
植込み型ループ式心電計  
徹底解説! 心電図 - 基礎から臨床まで -. (森 博愛、丸山 徹 編集)  
医学書院 2015; 249-52.
  8. 河野律子, 安部治彦.  
デバイスで検出される無症候性心房細動は治療すべきか?  
不整脈診療の極意 (山下武志 編集)  
南山堂 東京 2015; 167-73.
  9. 林 克英, 河野律子, 安部治彦.  
内科診断の道しるべ - その症候、どう診るどう考える.  
<失神> 2016増刊号  
医学書院 2016; 53: 76-80.
  10. 永田泰史, 尾辻 豊.  
大動脈弁閉鎖不全症  
循環器疾患 最新の治療2016-2017  
南江堂 2016; 177-81.

◇	4. 総 説(英文)	◇
◇		◇

1. Otsuji Y, Nakagawa M.  
Cardiovascular ultrasonography and laborator i Tests-More Valuable support for clinical practice--Chairmen's introductory remarks.  
Ribsho Byori 2015; 8: 947-8.



---

## 5. 総 説(和文)

1. **林 篤志, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
左室心筋重量係数の計測法とその臨床的意義に関しておしえてください.  
拡張不全の日常診断 Q&A  
中外医学社 東京都 2015; 107-10.
2. **永田泰史, 尾辻 豊.**  
睡眠時無呼吸に対する持続陽圧治療法 (CPAP) の拡張不全患者に対する効果を教えてください.  
拡張不全の日常診断 Q&A  
中外医学社 東京都 2015; 202-5.
3. **福山梓子, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
心形態・機能をエコーでみるーエコーはどこまで正確なのか.  
心エコー 文光堂 2015; 16: 540-3.
4. **村岡秀崇, 園田信成.**  
アーチファクトをPCIに活用するには.  
PCIで使い倒す IVUS徹底活用術 (本江純子 編集)  
**MEDICAL VIEW** 2015; 9-15.
5. **村岡秀崇, 園田信成.**  
冠動脈解離・血腫.  
PCIで使い倒す IVUS徹底活用術 (本江純子 編集)  
**MEDICAL VIEW** 2015; 55-61.
6. **園田信成.**  
若年男子 (40歳以下) に対するPCI治療.  
症例で覚える PCI術者に必要な治療Tips (五十嵐康己 編集)  
**MEDICAL VIEW** 2015; 40-6.
7. **林 篤志, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
僧帽弁逆流.  
新しいAHA/AAC弁膜症ガイドラインを知る.  
心エコー 文光堂 2015; 16: 46-53.
8. **中西弘毅, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
エコーで魅せるFMRのすべて.  
心エコー 文光堂 2015; 16: 912-7.
9. **林 篤志, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
左室心筋重量係数の計測法とその臨床的意義に関して教えてください.  
拡張不全の日常診療Q & A (伊藤 浩 編)  
中外医学社 2015; 107-10.

- 
10. 福山梓子, **福田祥大**, **尾辻 豊**.  
心腔の形態, 心機能を正確に評価する - エコー.  
心エコー 文光堂 2015; 16: 540-3.
  11. 河野 靖, **福田祥大**, **尾辻 豊**.  
僧帽弁狭窄を負荷心エコー法で診る.  
心エコー 文光堂 2015; 16: 704-9.
  12. 真弓俊彦, **穴井玲央**, 大坪広樹, 古屋智規.  
重症急性肺炎に伴うDICの診断・治療.  
救急医学 2015; 39: 1573-6.
  13. 真弓俊彦, 宇都宮祥弘, 吉野幸司, **穴井玲央**, 岡田祥明, 米良好正, 高間辰雄, 弓指恵一, 大坪広樹,  
古屋智規.  
急性アルゴリズムと初期治療.  
消化器外科 2015; 38: 1569-74.
  14. **河野律子**, **安部治彦**.  
不整脈患者の自動車運転.  
Medical Topics Series不整脈2015 (井上 博 編集)  
メデイカルレビュー社 大阪 2015; 204-14.
  15. **高橋正雄**, **河野律子**, **安部治彦**.  
植込み型除細動器 (ICD) 作動患者では運転免許証を失効すべきか?  
EBM循環器疾患の治療2015-2016 (小室一成 監修, 阿古潤哉・坂田泰史・池田隆徳・  
長谷部直幸 編集)  
中外医学社 東京 2015; 344-8.
  16. **尾辻 豊**.  
・増加する腎臓弁膜症.  
・僧房弁閉鎖不全症: プライマリー.  
・僧房弁閉鎖不全症: 虚血、心不全に伴う.  
循環器研修ノート改定第2版  
診断と治療社 2016; 3: 403-10
  17. **楠本三恵**, **福田祥大**, **尾辻 豊**.  
増加する心臓弁膜症.  
循環器研修ノート (永井良三 編集)  
診断と治療社 2016; 403-4.
  18. **林 篤志**, **福田祥大**, **尾辻 豊**.  
僧房弁閉鎖不全症: プライマリー.  
循環器研修ノート (永井良三 編集)  
診断と治療社 2016; 405-7.

- 
19. **尾上武志, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
僧帽弁閉鎖不全症：虚血, 心不全に伴う.  
循環器研修ノート (永井良三 編集)  
診断と治療社 2016; 408-10.
20. **安部治彦.**  
黒住論文に対するEditorial Comment.  
心臓 2015; 47: 809-9
21. **安部治彦.**  
心臓突然死と一過性意識消失・失神発作.  
感染防止 2015; 25: 1-5.
22. **河野律子.**  
第18章 特殊心電図 18.6 ループ心電図、植込み式ループ心電計.  
臨床心電図 2015.
23. **河野律子.**  
Q75 心房オーバーセンシングによるRNRVASって?  
今さら聞けない心臓ペースメーカ (岡村英夫 編集)  
メディカルレビュー社 2015; 238.
24. **河野律子.**  
Q39 心房中隔ペースングのメリット・デメリットを教えてください.  
今さら聞けない心臓ペースメーカ (岡村英夫 編集)  
メディカルレビュー社 2015;121.
25. **河野律子.**  
CIRCULATION Up-to-Date Books 10  
この失神、どう診るか? (安部治彦 編集)  
メディカ社 2016年
26. **田村雅仁.**  
重炭酸透析液の生体適合性.  
最新透析医療 先端技術との融合 2016; 268-73.

## ◇◇ 6. その他の著作 ◇◇

1. **尾辻 豊.**  
経食道心エコーの開発、応用——松崎益徳先生に聞く  
心臓 2015; 47: 1143-54.



---

◇ 7. 国際学会 ◇

**Korea Cardiovascular Interventional Imaging Forum 2015**  
**(2015年5月, Seoul, Korea)**

1. **Sonoda S.**

Which imaging and physiology modality should we use? - Diffuse long lesion -

**52<sup>nd</sup> ERA-EDTA Congress,**  
**(2015年5月, London, UK)**

2. **Miyamoto T, Matsumoto M, Ueno H, Otsuji K, Hasegawa E, Kuma A, Fujimoto Y, Bando K, Furuno Y, Serino R, Kabashima N, Tanaka H, Otsuji Y, Tamura M.**

Association between plasma pentraxin-3 levels and risk of all-cause mortality in Japanese hemodialysis patients with nutritional risk.

**EHRA EUROPACE-Cardiostim 2015**  
**(2015年6月, Milano, Italy)**

3. **Hayashi K, Kohno R, Akamatsu N, Oginosawa Y, Otsuji Y, Abe H.**

A higher prevalence of early repolarization and its characteristics on electrocardiogram in patients with epilepsy.

4. **Abe H.**

Syncope and sudden cardiac death prevention.

**European Society of Cardiology CONGRESS**  
**(2015年8月, London, UK)**

5. **Takami H, Sonoda S, Kitagawa M, Kashiya K, Muraoka Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**

Impact of additional intracoronary nicorandil during fractional flow reserve measurement with intravenous ATP infusion

6. **Hayashi K, Abe H, Takahashi M, Watabe T, Ohe H, Kohno R, Oginosawa Y, Otsuji Y.**

Correlation between right ventricular pacing and newly occurrence of atrial fibrillation in pacemaker patients with atrioventricular block: Insight into electrophysiological mechanism.

**TCT2015-Trancatheter Cardiovascular Therapeutics**  
**(2015年10月, San Francisco, USA)**

7. **Sanuki Y, Sonoda S, Kitagawa M, Takami H, Muraoka Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**

Assessment of Optimal Drug-Eluting Stent Expansion to prevent target lesion revascularization with OCT guidance.

---

**The 8<sup>th</sup> Asia-Pacific Heart Rhythm Society Scientific Sessions (APHRS)**  
**(2015年11月, Melbourne, Australia)**

8. **Hayashi K, Abe H, Takahashi M, Ohe H, Kohno R, Oginosawa Y, Otsuji Y.**  
Outcome of long term follow-up in AV block patients with mid-ventricular septal pacing.
9. **Igarashi T, Wilson D, Ueno S.**  
High dose of exposure to  $\gamma$ -radiation suppressed conduction properties and the expression of connexin43 in the intercalated disk in mice.
10. **Oginosawa Y, Abe H, Kohno R, Ohe H, Hayashi K, Takahashi M, Otsuji Y.**  
Sudden cardiac death in working generation: Long-term trend of incidence and resuscitation by colleagues. – Data from nationwide Japan Utstein Registry –

**American Heart Association 2015**  
**(2015年11月, Orland Florida, USA)**

11. **Hayashi A.**  
Advances in imaging mitral valve disease.
12. **Hayashi A, Fukuda S, Takeuchi M, Onoue T, Kado Y, Nagata Y, Iwataki M, Ohtani K, Miyamoto T, Oginosawa Y, Sonoda S.**  
Different left atrial remodeling between patients with Holo-and Late-Systolic mitral valve Prolapse: Three-dimensional echocardiographic comparison.
13. **Fukuda S.**  
Surgical therapy for valvular heart disease II.
14. **Fukuda S.**  
Contemporary Role of Echocardiography in Structural Heart Disease.

**American Society of nephrology Renal Week 2015**  
**(2015年11月, San Diego, USA)**

15. **Kuma A, Ishimatsu N, Miyamoto T, Serino R, Furuno Y, Nakano Y, Otsuji Y, Tamura M,**  
Bicarbonate-buffered peritoneal dialysis solution suppresses lactate-induced apoptosis via monocarboxylate transporter-1 in human peritoneal mesothelial cells.

**16<sup>th</sup> Congress of the International Society for Peritoneal Dialysis**  
**(2016年2月, Melbourne, Australia)**

16. **Kuma A, Tamura M, Ishimatsu N, Miyamoto T, Serino R, Nakano Y, Ueno H, Otsuji Y.**  
Bicarbonate-buffered peritoneal dialysis solution suppressed apoptosis of human peritoneal mesothelial cells via monocarboxylate transporter-1.

---

**American College of Cardiology 2016**  
**(2016年3月, Chicago, USA)**

17. **Takami H, Sonoda S, Muraoka Y, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Ttsuji Y.**  
Effect of additional intracoronary nicorandil administration during fractional flow reserve measurement with intravenous ATP infusion.

**The Society for Cardiovascular Angiography and Interventions CTO boot camp**  
**(2016年3月, Hong Kong, China)**

18. **Sonoda S.**  
Master imaging in complex PCI. IVUS-guided PCI Learning from Cases.

◇	◇
◇	◇

**8. 国内学会(総会)**

**第79回日本循環器学会学術集会**  
**(2015年4月, 大阪)**

1. Harrell DT, Ishikawa T, Komiya N, Takahashi K, **Oginosawa Y, Abe H**, Maemura K, Sumitomo N, Uno K, Makita N.  
Distinct clinical characteristics in short QT syndrome associated with mutations in KCNH2 or KCNQ1.
2. **Kohno R, Abe H.**  
Morning Lecture: Diagnosis of syncope.
3. **Kohno R, Abe H.**  
Meet the expert: Differential diagnosis between syncope and non syncopal conditions
4. **Fukuda S, Takeuchi M, Hayashi A, Kado Y**, Fukuyama A, **Nagata Y, Iwataki M, Otani K**, Eto M, Nishimura Y, Levine RA, **Otsuji Y.**  
Superiority of mitral valve prolapse evaluation relative to Non-Prolapsed leaflets in comparison with that relative to annulus: Three-dimensional echocardiographic study.
5. **Hayashi A, Takeuchi M, Nagata Y, Yuichiro K, Otani K, Fukuda S, Otsuji Y.**  
Echocardiographic predictors of left ventricular reverse remodeling in patients with heart failure treated by adaptive Servo-Ventilation therapy.
6. **Nagata Y, Takeuchi M, Hayashi A, Otani K, Fukuda S, Otsuji Y.**  
Incremental value of Ventricular-Arterial coupling by 3D speckle tracking echocardiography in different diastolic dysfunction grade.



- 
7. **Nagata Y, Takeuchi M, Hayashi A, Otani K, Fukuda S, Yoshitani H, Otsuji Y.**  
Normal value of layer strain assessed by 2D speckle tracking echocardiography.
  8. **Kashiyama K, Sonoda S, et al.**  
Coronary plaque progression on non-culprit lesions after culprit PCI in patients with advanced-stage chronic kidney disease - Integrated backscatter IVUS study-
  9. **Kashiyama K, Sonoda S, et al.**  
Relationship between coronary arterial remodeling in culprit lesions and coronary plaque progression in non-culprit lesions in diabetic patients.
  10. **Kitagawa M, Tsuda Y, Sonoda S, et al.**  
Mid-term clinical outcomes after revascularization of renal artery stenosis.
  11. **Tanaka S, Iwagaki H, Nakazono K, Takahashi M, Sanuki Y, Ozumi K, Sakai K, Harada T, Tasaki H.**  
Differences between heart failure with preserved and reduced ejection fraction in response to cardiac rehabilitation ~Impact of endothelial function.
  12. **Oginosawa Y, Ohe H, Abe H, Kohno R, Watabe T, Hayashi K, Takahashi M, Otsuji Y.**  
Pacing and sensing interference by air bubbles surrounding non-extended helix of active fixation leads: in vivo observations and in vitro experiments.

## 第88回日本超音波医学会 (2015年5月, 東京)

13. **尾辻 豊.**  
循環器超音波カイトライン:継続的な改訂の必要性.
14. **竹内正明.**  
循環器 1 low-flow low gradient AS を極める.
15. **林 篤志, 福田祥大, 沼田哲也, 尾辻 豊.**  
心エコーに基づいた心不全リハビリテーションの試み.
16. **永田泰史, 竹内正明, 角裕一郎, 大谷恭子, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
シンポジウム領域横断3 「3次元画像診断の適応と展望」  
臨床現場における3次元心エコー図法の現状と有用性 - 形態及び心機能評価 -
17. **永田泰史, 竹内正明, 角裕一郎, 大谷恭子, 福田祥大, 尾辻 豊.**  
左室-大動脈カップリングの予後予測因子としての有用性の検討.
18. 角裕一郎, **竹内正明, 水越 慶, 永田泰史, 石津智子, 瀬尾由広, 出雲昌樹, 明石嘉浩, 青沼和隆, 尾辻 豊.**  
2D スヘックルトラッキング法を用いた心アミロイトーシスの予後予測の検討.

- 
19. **桑木 恒**, 竹田光男, 尾崎 健, 尾田知之, 氏野経士.  
経食道心エコー図検査で評価した卵円孔開存の頻度.

20. **福田祥大**.  
ストレインエコーの使い方.

### 第88回日本産業衛生学会 (2015年5月, 大阪)

21. **五十嵐友紀**, Wilson DJ, 上野 晋.  
有機溶剤曝露後の急性期における心筋細胞傷害性ならびにギャップ結合関連タンパク質の発現の評価.

### 第42回日本毒性学会学術集会 (2015年6月, 金沢)

22. **五十嵐友紀**, Wilson DJ, 上野 晋.  
有機溶剤曝露後の急性期における心筋細胞傷害性ならびにギャップ結合関連タンパク質の発現の評価.

### 第60回日本透析医学会学術集会 (2015年6月, 横浜)

23. **田村雅仁**, 久間昭寛, 宮本 哲, 芹野良太.  
重炭酸透析液の生体適合性.
24. **宮崎三枝子**, 永淵一光, 小坂一英, 井下俊一, 櫻井俊弘, 田村雅仁.  
血液透析患者の大腸癌肝転移にmFOLFOX6 + Bevacizumab療法が奏効した1例.
25. **久間昭寛**, 田村雅仁, 宮本 哲, 石松那奈, 上野啓通, 中野陽子, 坂東健一郎, 芹野良太, 尾辻 豊.  
重炭酸含有腹膜透析液が腹膜中皮細胞に与える影響.
26. **宮本 哲**, 中野陽子, 坂東健一郎, 芹野良太, 松本美香, 八代 晃, 田中 弘, 尾辻 豊, 田村雅仁.  
血液透析患者における栄養リスク別の血清CRPと生命予後の関係.

### 第58回日本腎臓学会学術総会 (2015年6月, 名古屋)

27. **田村雅仁**.  
Biocompatibility and cytotoxicity of various PDF and their implications.

- 
28. 宮本 哲, 松本美香, 古野郁太郎, 上野啓通, 尾辻 健, 中野陽子, 石松菜那, 古野由美, 芹野良太, 八代 晃, 田中 弘, 尾辻 豊, 田村雅仁.  
維持血液透析患者における血中ペントラキシン (CRPおよびPTX3) と生命予後の関連.
  29. 石松菜那, 宮本 哲, 中俣潤一, 馬場良子, 芹野良太, 尾辻 豊, 森本景之, 田村雅仁.  
腹膜透析モデルラットにおける新規腹膜炎マーカー (Pentraxin3) の検討.
  30. 古野由美, 沼田哲也, 林 篤志, 尾辻 豊, 田村雅仁.  
当院での慢性腎臓病患者における睡眠時無呼吸症候群の合併および腎機能に関する検討.

### 第30回日本不整脈学会学術大会／第32回日本心電学会合同学術大会 (2015年7月, 京都)

31. Hayashi K, Abe H, Takahashi M, Ohe H, Kohno R, Oginosawa Y, Otsuji Y.  
Impact of right ventricular septum pacing for left ventricular function in paced patients with AV block.
32. Abe H.  
研修セミナー 教育講演: 社会的問題.
33. Abe H.  
Driving restriction by revision of Japan road and traffic law in patients with cardiac arrhythmias.
34. Abe H.  
Is a HUT necessary for the prediction of sudden cardiac death? Pro.
35. Kohno R.  
Panel discussion  
Paroxysmal atrioventricular block detected by implantable loop recorder in syncope patients.
36. Kohno R.  
Debate1 : Is external loop recorder useful in cases of syncope?
37. Kohno R.  
スイーツセミナー  
To implant? or Not implant?: The current use of ILRs from a nationwide survey for cardiologists in unexplained syncope diagnosis.
38. Kohno R, Abe H.  
Device settings for detecting true atrial tachyarrhythmias and algorithms for preventing atrial tachyarrhythmias.



- 
39. Harrell DT, Ashihara T, Ishikawa T, Mazzanti A, Takahashi K, **Oginosawa Y, Abe H**, Maemura K, Sumitomo N, Uno K, Takano M, Priori SG, Makita N.

Meta-analysis of short QT syndrome discloses genotype-dependent clinical characteristics in age of manifestation and arrhythmia complication.

40. **Igarashi T.**

High dose of exposure to  $\gamma$ -radiation suppressed conduction properties and the expression of connexin43 in the intercalated disk in mice.

41. **Igarashi T.**

Low dose of exposure to organic solvents decreased the expression of connexin43 in human ventricular cardiomyocytes.

### 第21回日本心臓リハビリテーション学会 (2015年7月, 福岡)

42. 久原聡志, 花田菜摘, 石倉龍太, 緒方友登, 村上武史, 中元洋子, 明日 徹, 舌間秀雄, 伊藤英明, 加藤徳明, 佐伯 覚, **荒木 優, 尾辻 豊**, 江藤政尚, 西村陽介.  
当院における包括的心臓リハビリテーションの動向と今後の課題.

### 第61回日本臨床検査医学会学術集会 (2015年8月, 福岡)

43. **Otsuji Y**, Nakagawa M.

Cardiovascular ultrasonography and laboratory tests More Valuable Support Clinical Practice- Chairmen's introductory remarks.

### 第24回日本心血管インターベンション治療学会 (2015年8月, 福岡)

44. **園田信成.**

教育講演 : How to use coronary imaging during PCI? OCT/OFDI guided PCI.

45. **Taniguchi K, Araki M, Kitagawa M, Takami H, Kashiyama K, Muraoka Y, Sanuki Y, Tsuda Y, Sonoda S, Otsuji Y.**

Cardiac rehabilitation increases the EPA/AA ratio in patients with ST-Elevation acute myocardial infarction.

46. **Muraoka Y, Sonoda S, Inoue K, Taniguchi K, Kitagawa M, Takami H, Kashiyama K, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**

FD-OCT assessment of coronary segments adjacent to the culprit lesions with remote plaque progression after PCI.

- 
47. **Kitagawa M, Tsuda Y, Taniguchi K, Takami H, Kashiyama K, Muraoka Y, Sanuki Y, Araki M, Sonoda S, Otsuji Y.**  
Impact of revascularization on Long-term clinical outcomes in patients with renal artery stenosis.
48. **Sanuki Y, Sonoda S, Kitagawa M, Takami H, Kashiyama K, Muraoka Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**  
Two cases of thrombus formation in left atrial appendage after percutaneous coronary intervention for LCX.
49. **Sanuki Y, Sonoda S, Kitagawa M, Takami H, Kashiyama K, Muraoka Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**  
Assessment of optimal Drug-Eluting stent expansion to prevent target lesion revascularization with OCT guidance.
50. **高見浩仁, 園田信成, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 榎山国宣, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
冠動脈重症度評価における血管内腔IB-IVUSとFFR、iFRの関連性についての検討.
51. **榎山国宣, 園田信成, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 高見浩仁, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
糖尿病患者PCI非責任病変の冠動脈プラーク進展に対する責任病変における陽性リモデリングの影響について.
52. **高見浩仁, 園田信成, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 榎山国宣, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
Impact of additional intracoronary nicorandil administration during FFR measurement with intravenous ATP infusion.
53. **Inoue K, Muraoka Y, Kitagawa M, Taniguchi K, Takami H, Kashiyama K, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Sonoda S, Otsuji Y.**  
Efficacy of DCB for recurrent BMS restenosis in a patient with repetitive gastrointestinal hemorrhage on DAPT therapy.

### 第63回日本心臓病学会 (2015年9月, 横浜市)

54. **大江学治, 荻ノ沢泰司, 高橋正雄, 林 克英, 河野律子, 安部治彦, 尾辻 豊, 蒔田直昌.**  
墮胎術中にTorsades de pointesを来した先天性QT延長症候群の1例.
55. **佐貫仁宣, 園田信成, 北川めぐみ, 高見浩仁, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
光干渉断層法ガイド冠血行再建術8か月後の再治療回避における薬剤溶出性ステント至適拡張についての検討.
56. **林 篤志, 福田翔大, 永田泰史, 尾上武志, 角裕一郎, 沼田哲也, 尾辻 豊.**  
Adaptive servo ventilator治療により心拍出量が低下した右心不全の一例.

- 
57. 園田信成, 檜山国宣, 村岡秀崇, 高見浩仁, 佐貫仁宣, 北川めぐみ, 谷口一成, 津田有輝, 荒木 優, 岩根幹能, 尾辻 豊.  
2型糖尿病患者におけるPCI責任病変形態とPCI非責任病変プラーク進展との関連について.
58. 永田泰史, 竹内正明, 角裕一郎, 尾上武志, 林 篤志, 大谷恭子, 福田翔大, 尾辻 豊.  
最近経験したレフレル心内膜炎の2例.
59. 高見浩仁, 園田信成, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
FFR過小評価を同定し、より正確なFFR計測を行う為の試み.
60. 村岡秀崇, 園田信成, 北川めぐみ, 高見浩仁, 檜山国宣, 佐貫仁宣, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
PCI後の標的血管非責任病変進行の予測は可能か - FD - OCT によるプラーク組織性状評価の有用性についての検討 -
61. 福田翔大, 馬原啓太郎, 桑木 恒, 竹内正明, 園田信成, 安部治彦, 江藤政尚, 西村陽介, 高梨秀一郎, 尾辻 豊.  
僧帽弁逸脱における二次性左室基部収縮低下: 弁形成術は左室基部収縮低下を改善させる.

#### 第45回 日本腎臓学会西部学術大会 (2015年10月, 金沢)

62. 上野啓通, 田村雅仁, 前田千恵, 柳沼和恵, 穴井美希, 藤本陽子, 石松菜那, 古野由美, 芹野良太, 尾辻 豊.  
ステロイド抵抗性紫斑病性腎炎にmizoribineが著効した一例.
63. 眞田賢哉, 芹野良太, 柳沼和恵, 藤本陽子, 上野啓通, 穴井美希, 坂東健一郎, 尾辻 健, 前田千恵, 石松菜那, 田村雅仁, 尾辻 豊.  
17年間の腹膜透析患者の剖検例.
64. 芹野良太, 藤本陽子, 坂東健一郎, 古野由美, 石松菜那, 久間昭寛, 柳沼和恵, 尾辻 健, 田村雅仁,  
検尿異常で発見された自然寛解したC1q腎症の一例.

#### 第33回産業医科大学学会総会 (2015年10月, 北九州市)

65. 五十嵐友紀, 香崎正宙, Donald J Wilson, 盛武 敬, 上野 晋, 岡崎龍史.  
放射線照射急性期における心臓刺激伝道系およびギャップ結合タンパク質発現の評価.
66. 河野律子, 林 克英, 高橋正雄, 大江学治, 荻ノ沢泰司, 安部治彦.  
就労者における失神発作の早期診断に有用な非観血的検査機器の臨床応用.
67. 福田祥大, 荻ノ沢泰司, 村岡秀崇, 大江学治, 尾辻 豊.  
医療従事者において夜間勤務がArterial Stiffnessの日内変動に与える影響.

---

**カテーテルアブレーション関連秋季大会  
(2015年10月, 福島)**

68. 林 克英, 萩ノ沢泰司, 高橋正雄, 大江学治, 河野律子, 安部治彦, 尾辻 豊.  
順伝導がslow pathway単独のため、jump-up現象なく誘発され、incessantに生じるslow-fast AVNRTの診断及び治療に難渋した肥大型心筋症の1例.

**Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)2015  
(2015年10月, 神戸)**

69. Muraoka Y, Sonoda S, Takami H, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y  
Retrospective baseline OCT analysis of non-culprit segments with remote coronary plaque progression after PCI.

**第19回日本心不全学会学術集会  
(2015年10月, 大阪)**

70. 花田菜摘, 久原聡志, 中元洋子, 明日 徹, 舌間秀雄, 清水美幸, 荒木 優, 蜂須賀明子, 佐伯 覚.  
心不全患者の外來心臓リハビリテーション実施上の課題.  
- 心不全増悪による再入院患者の経験から -
71. Kusumoto M, Araki M, Nagata Y, Hayashi A, Tsuda Y, Otsuji Y.  
Transition from intravenous epoprostenol to intravenous treprostinil in a portopulmonary hypertension patient with thrombocytopenia.
72. 矢野雄大, 石倉龍太, 久原聡志, 明日 徹, 舌間秀雄, 荒木 優, 尾辻 豊, 蜂須賀明子, 伊藤英明, 佐伯 覚.  
血液透析併用中の弁置換術後に透析前運動療法が奏功した1症例.
73. Araki M, Nagata Y, Hayashi A, Tsuda Y, Otsuji Y.  
Shunt closure improved the transmitral flow pattern in a patient with chronic heart and renal failure on hemodialysis.

**第21回日本腹膜透析医学会学術集会・総会  
(2015年11月, 仙台)**

74. 久間昭寛, 田村雅仁, 石松菜那, 宮本 哲, 藤本陽子, 古野由美, 芹野良太, 尾辻 豊.  
重炭酸透析液の生体適合性. ~乳酸トランスポーターMCTを介したapoptosis誘導の抑制~
75. 柳沼和恵, 眞田賢哉, 上野啓通, 穴井美希, 藤本陽子, 石松菜那, 古野由美, 芹野良太, 尾辻 豊, 田村雅仁.  
17年間の腹膜透析歴患者の一剖検例.



---

**第72回日本循環器心身医学会総会  
(2015年11月, 大分市)**

76. **安部治彦.**  
スイーツセミナー: ストレスと失神.

**第26回日本心血管画像動態学会  
(2016年1月, 東京)**

77. **高見浩仁, 園田信成, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 檜山国宣, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
FFRガイド下にDeferした病変の進行をIVUS/OCTにて観察し得た一例.
78. **佐貫仁宣, 園田信成, 北川めぐみ, 高見浩仁, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
血管内超音波・光干渉断層法施行後の心筋障害の出現とその予後についての検討.

**第8回福岡県医学会総会  
(2016年2月, 福岡市)**

79. **福田祥大, 荻ノ沢泰司, 村岡秀崇, 大江学治, 尾辻 豊.**  
医療従事者において夜間勤務がArterial Stiffnessの日内変動に与える影響.

**日本不整脈学会・第8回植込みデバイス関連冬期大会  
(2016年2月, 北九州市)**

80. **大江学治, 荻ノ沢泰司, 高橋正雄, 林 克英, 河野律子, 安部治彦, 尾辻 豊.**  
ペースメーカーリード再固定時に、本体からのリード取り外しに難渋した2症例と機序に関する考察.

**第80回日本循環器学会学術集会  
(2016年3月, 仙台)**

81. **Muraoka Y, Sonoda S, Takami H, Kitagawa M, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**  
Relationship between periprocedural FD-OCT assessment and remote coronary plaque progression in PCI Non-culprit segments.
82. **Hayashi A.**  
Different Three-Dimensional geometry of left atrium between patients with Holo- and Late-Systolic mitral valve prolapse.
83. **Nagata Y, Takeuchi M, Otani K, Izumo M, Suzuki K, Sato K, Seo Y, Ishizu T, Akashi JY, Aonuma K, Otsuji Y.**  
3D strain in patients with severe aortic stenosis and preserved left ventricular ejection fraction.

- 
84. **Kitagawa M, Tsuda Y, Takami H, Sanuki Y, Muraoka Y, Araki M, Sonoda S, Otsuji Y.**  
Long-term prognosis of PTRAs for renal artery stenosis.
85. **Sanuki Y, Sonoda S, Kitagawa M, Takami H, Muraoka Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**  
Impact of cardiac troponin trend during diagnostic invasive coronary assessment.
86. **Araki M, Kitagawa M, Takami H, Kashiyama K, Muraoka Y, Sanuki Y, Tsuda Y, Sonoda S, Otsuji Y.**  
Cardiac rehabilitation increases the eicosapentaenoic Acid-to-Arachidonic acid ratio in patients with acute coronary syndrome.
87. **Watabe T, Abe H, Hayashi K, Ohe H, Kohno R, Oginosawa Y, Otsuji Y.**  
Characteristics of newly developed atrial fibrillation in the patients with cardiac implantable electronic devices: when should we initiate anticoagulant therapy?
88. **Takami H, Sonoda S, Muraoka Y, Kitagawa M, Kashiyama K, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**  
Effect of nicorandil during fractional flow reserve measurement with intravenous ATP infusion.
89. **Takami H, Sonoda S, Muraoka Y, Kitagawa M, Kashiyama K, Sanuki Y, Tsuda Y, Araki M, Otsuji Y.**  
Application of intraluminal integrated backscatter measurements for predicting functional severity of coronary stenosis.

◇ 9. 国内学会(地方会) ◇

**第309回日本内科学会九州地方会  
(2015年5月, 久留米市)**

1. **大江学治, 荻ノ沢泰司, 高橋正雄, 林 克英, 渡部太一, 尾辻 豊.**  
墮胎術中にTorsades de Pointesを来した先天性QT延長症候群の1例.

**第118回日本循環器学会九州地方会  
(2015年6月, 福岡市)**

2. **中園和利, 太崎博美, 原田 敬, 田中正哉, 酒井孝裕, 小住清志, 佐貫仁宣, 岩垣端礼.**  
深部静脈血栓症による肺塞栓症を発症した原因として子宮腺筋症が疑われた症例.
3. **楠本三恵, 福田祥大, 林 篤志, 尾上武志, 角裕一郎, 永田泰史, 大谷恭子, 竹内正明, 尾辻 豊.**  
アルコール性肝硬変に伴う門脈肺高血圧症を呈した一症例.
4. **早川裕紀, 村岡秀崇, 三浦俊哉, 高見浩仁, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 津田有輝, 荒木 優, 園田信成, 尾辻 豊.**  
当院におけるステント内再狭窄病変に対する薬剤コーティングバルーンの 治療成績.

---

5. 鍋嶋洋裕, 平川晴久, 五十住和彦.

冠動脈疾患に合併した高CK血症の診断に苦慮した一例.

6. 石田大史, 竹内正明, 角裕一郎, 永田泰史, 大谷恭子, 福田祥大, 尾辻 豊.

心筋シンチにより病型を含めた診断が可能であった心アミロイドーシスの1例.

**日本心エコー学会Echo Kobe2015第24回夏期講習会  
(2015年7月, 神戸市)**

7. 尾辻 豊.

SAMの成因: Drag force vs. Venturi effect.

8. 安部治彦.

ランチョンセミナー: 心房細動と薬物治療.

9. 福田祥大.

大動脈瘤の疫学: 急増している!

**第310回日本内科学会九州地方会  
(2015年8月, 佐賀)**

10. 高橋正雄, 荻ノ沢泰司, 林 克英, 大江学治, 尾辻 豊, 河野律子, 安部治彦.

著明な圧変動を来すHis束近傍起原接合部調律を伴う発作性心房細動の1例.

**日本超音波医学会第42回関西地方会  
(2015年9月, 大阪)**

11. 園田信成.

ランチョンセミナー: 虚血性心疾患に対する抗血小板療法の現状と今後の展望.

**第25回日本超音波医学会九州地方会  
(2015年9月, 鹿児島)**

12. 尾辻 豊.

特別講演 心エコーで見る左室・僧帽弁関連.

13. 林 篤志, 福田祥大, 竹内正明, 尾上武志, 角裕一郎, 永田泰史, 大谷恭子, 尾辻 豊.

収縮後期僧帽弁逸脱では弁輪拡大が左房拡大に寄与する?: 3次元心エコーによる検討.

14. 永田泰史.

シュミレーター講習会①Asynergyの見方.

15. 林 篤志.

シュミレーター講習会②僧帽弁逸脱部位の判断.

- 
16. **永田泰史.**  
シュミレーター講習会③ HCMを診断する.
17. **林 篤志.**  
シュミレーター講習会④検査技師が知っておくべきTEE評価ポイント.
18. **北野哲司, 福田祥大, 永田泰史, 尾上武志, 角裕一郎, 林 篤志, 大谷恭子, 竹内正明, 尾辻 豊.**  
心房細動における左室流入波形の心拍間変動は長期心予後と関連する.
19. **早川裕紀, 福田祥大, 園田信成, 林 篤志, 尾上武志, 高見浩仁, 永田泰史, 村岡秀崇, 竹内正明, 尾辻 豊.**  
心室中隔中部に局限した急性心筋梗塞の1例.

### 第1回日本心臓リハビリテーション学会九州地方会 (2015年10月, 北九州市)

20. **矢野雄大, 石倉龍太, 久原聡志, 明日 徹, 舌間秀雄, 荒木 優, 尾辻 豊, 蜂須賀明子, 伊藤英明, 佐伯 覚.**  
血液透析併用中の弁置換術後に透析前運動療法が奏功した1症例.
21. **寺松寛明, 河野亨太, 賀好宏明, 白山義洋, 岩垣端礼, 岩瀧麻衣, 春木伸彦, 小松拓郎, 白石純一郎, 岡崎哲也, 佐伯 覚.**  
心不全患者におけるShort Physical Performance Battery (SPPB)の妥当性および評価特性についての検討.

### 第311回日本内科学会九州地方会 (2015年11月, 長崎)

22. **岡部宏樹, 前田千恵, 上野啓通, 穴井美希, 芹野良太, 尾辻 豊.**  
急性腎障害を呈した糖尿病性腎症合併微小変化型ネフローゼ症候群の1例.

### 第22回日本心血管院インターベンション治療学会(CVIT)九州沖縄地方会 (2015年11月, 沖縄)

23. **村岡秀崇, 園田信成, 高見浩仁, 北川めぐみ, 檜山国宣, 佐貫仁宣, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.**  
冠動脈イメージングとフィジオロジーセッション ~IVUS/OCT/CT画像を読み解く!  
~当院でのMultivessel disease (多枝病変)に対するアプローチ.
24. **園田信成.**  
ランチョンセミナー:Ultimasterの実力 (パネリスト).



---

## 第119回日本循環器学会九州地方会 (2015年12月, 福岡市)

25. 岩垣端礼, 岩瀧麻衣, 春木伸彦, 尾辻 豊.  
ACE阻害薬投与後に低Na血症が遷延した高齢男性の一例.
26. 瀬戸山航史, 荒木 優, 高見浩仁, 北川めぐみ, 穴井玲央, 檜山国宣, 村岡秀崇, 佐貫仁宣,  
津田有輝, 園田信成, 尾辻 豊.  
アセチルコリン負荷で多枝冠攣縮が誘発され、たこつぼ型心筋障害の一因と考えられた2症例.
27. 屏 壮史, 荻ノ沢泰司, 高橋正雄, 林 克英, 大江学治, 河野律子, 安部治彦, 尾辻 豊.  
多臓器不全を主体に来院し持続性心室頻拍を合併した動脈硬化性血管疾患の一例.
28. 原田 敬, 眞田賢哉, 中園和利, 佐貫仁宣, 小住清志, 田中正哉, 太崎博美.  
鎖骨下動脈狭窄に対する血管内治療の長期成績.
29. 園田信成.  
ランチョンセミナー: 第3世代DES Ultimaster.

## 第312回日本内科学会九州地方会 (2016年1月, 福岡市)

30. 菅 亮太, 津田有輝, 荒木 優, 楠本三恵, 清水昭良, 高見浩仁, 佐貫仁宣, 村岡秀崇, 園田信成,  
尾辻 豊.  
外傷性血腫を契機として左下肢動脈閉塞を来した1例.

## 第26回日本老年医学会九州地方会 (2016年3月, 鹿児島市)

31. 岩垣端礼, 春木伸彦, 岩瀧麻衣, 中俣潤一, 尾辻 豊.  
ACE阻害薬投与後に低Na血症が遷延した高齢男性の一例.
32. 渡邊泰生, 園田信成, 高見浩仁, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
冠攣縮が関与した心室中隔枝閉塞による急性心筋梗塞の一例.

◇ 10. 研究会(国際) ◇

## Seoul-Kitakyushu Echo Conference (2015年10月, 福岡市)

1. Iwataki M.  
Dynamic stretched patent foramen ovale in a patient with mitral valve prolapse.

---

## 第119回日本循環器学会九州地方会 (2015年12月, 福岡市)

25. 岩垣端礼, 岩瀧麻衣, 春木伸彦, 尾辻 豊.  
ACE阻害薬投与後に低Na血症が遷延した高齢男性の一例.
26. 瀬戸山航史, 荒木 優, 高見浩仁, 北川めぐみ, 穴井玲央, 檜山国宣, 村岡秀崇, 佐貫仁宣,  
津田有輝, 園田信成, 尾辻 豊.  
アセチルコリン負荷で多枝冠攣縮が誘発され、たこつぼ型心筋障害の一因と考えられた2症例.
27. 屏 壮史, 荻ノ沢泰司, 高橋正雄, 林 克英, 大江学治, 河野律子, 安部治彦, 尾辻 豊.  
多臓器不全を主体に来院し持続性心室頻拍を合併した動脈硬化性血管疾患の一例.
28. 原田 敬, 眞田賢哉, 中園和利, 佐貫仁宣, 小住清志, 田中正哉, 太崎博美.  
鎖骨下動脈狭窄に対する血管内治療の長期成績.
29. 園田信成.  
ランチョンセミナー: 第3世代DES Ultimaster.

## 第312回日本内科学会九州地方会 (2016年1月, 福岡市)

30. 菅 亮太, 津田有輝, 荒木 優, 楠本三恵, 清水昭良, 高見浩仁, 佐貫仁宣, 村岡秀崇, 園田信成,  
尾辻 豊.  
外傷性血腫を契機として左下肢動脈閉塞を来した1例.

## 第26回日本老年医学会九州地方会 (2016年3月, 鹿児島市)

31. 岩垣端礼, 春木伸彦, 岩瀧麻衣, 中俣潤一, 尾辻 豊.  
ACE阻害薬投与後に低Na血症が遷延した高齢男性の一例.
32. 渡邊泰生, 園田信成, 高見浩仁, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
冠攣縮が関与した心室中隔枝閉塞による急性心筋梗塞の一例.

◇	10. 研究会(国際)	◇
◇		◇

## Seoul-Kitakyushu Echo Conference (2015年10月, 福岡市)

1. Iwataki M.  
Dynamic stretched patent foramen ovale in a patient with mitral valve prolapse.

---

◇ 11. 研究会 (全国) ◇

**Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference (TOPIC) 2015  
(2015年7月, 東京)**

1. 園田信成.

Ambitious session (Part1) 上手なスライド作成法.

2. 園田信成.

世界からのPCI現状 (留学生からの提言) これから世界へ -EBM-

**第7回 腎疾患と高血圧研究会  
(2015年7月, 東京)**

3. 津田有輝, 芹野良太, 北川めぐみ, 村岡秀崇, 荒木 優, 園田信成, 尾辻 豊

腎動脈狭窄症に対し経皮的腎血管形成術が腎機能障害に及ぼす影響の検討.

**Seoul-Kitakyushu Echo Conference  
(2015年10月, 福岡市)**

4. 岩瀧麻衣.

Dynamic stretched patent foramen ovale in a patient with mitral valve prolapse.

**第1回新横浜不整脈治療研究会  
(2015年10月, 横浜)**

5. 荻ノ沢泰司.

「運転してもいいですか？」デバイス植込み患者を診るために必須な社会的知識.

**Strategy and Treatment for cardiovascular disease 2015  
(2015年10月, 東京)**

6. 佐貫仁宣, 園田信成, 北川めぐみ, 高見浩仁, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.

光干渉断層法ガイド冠血行再建術8か月後の再治療回避における薬剤溶出性ステント至適拡張についての検討.

---

## Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2015 (2015年10月, 神戸市)

7. 村岡秀崇, 園田信成, 北川めぐみ, 高見浩仁, 檜山国宣, 佐貫仁宣, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
Retrospective baseline OCT analysis of non-culprit segments with remote coronary plaque progression after PCI.
8. 高見浩仁, 園田信成, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 檜山国宣, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
Acute myocardial infarction of septal branch due to vasospastic angina.
9. 園田信成.  
IVUS learning center: 症例から学ぶIVUS-guided PCI.

## PCI Technical Education Course (PTEC) 2015 (2015年11月, 宮崎)

10. 園田信成.  
Imaging session: IVUSとは何か – FFRとOCTとの違い –

## Slender Club Okinawa boot camp (2015年11月, 沖縄)

11. 園田信成.  
IVUS/OCT/OFDI 私の使い方!

## 第48回九州人工透析研究会総会 (2015年12月, 長崎)

12. 菅 亮太, 上野啓通, 古野由美, 岡崎哲也, 田村雅仁, 尾辻 豊.  
高齢慢性腎不全患者における少量透析液処方による腹膜透析の導入.

## 第8回Terumo Intravascular Imaging Seminar (2016年1月, 東京)

13. 園田信成.  
LMT/分岐部病変に対するイメージングモダリティの活用.

## 第9回IB-IVUS研究会 (2016年1月, 東京)

14. 高見浩仁, 園田信成, 北川めぐみ, 佐貫仁宣, 檜山国宣, 村岡秀崇, 津田有輝, 荒木 優, 尾辻 豊.  
冠動脈重症度評価における血管内腔IB-IVUSとFFR、iFRの関連性についての検討.



---

**PCI fellow course  
(2016年2月, 横浜)**

15. 園田信成.

IVUS Learning Course: How to use IVUS.

**第24回東海腹膜透析研究会  
(2016年2月, 名古屋)**

16. 田村雅仁.

これからの腹膜透析を考える. ~透析液の進歩と診断連携~

◇◇ 12. 研究会 (地方会) ◇◇

**第13回北九州循環器フェローシップ研究会  
(2015年4月, 北九州市)**

1. 高見浩仁.

中枢性睡眠時無呼吸症候群を合併した低左心機能の一例.

**第21回ひびき循環器症例検討会  
(2015年5月, 北九州市)**

2. 石田大史.

左室心尖部に著名な石灰化をみとめた2例.

3. 眞田賢哉.

Long SFA-CTOに対して体表エコーガイド下にCROSSERシステムで治療した1例.

4. 園田信成.

冠動脈分岐部病変に対する3D-OCTガイドステント留置術.

**第8回若松循環器・腎臓病カンファレンス  
(2015年5月, 北九州市)**

5. 岩瀧麻衣.

救命し得た心室中隔穿孔の一例.

6. 沼田哲也.

Q&Aコーナー:  $\omega$ 3系脂肪酸製剤について.

7. 中俣潤一.

ミニレクチャー: 検尿のみかた.

---

**第27回産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会  
(2015年6月, 北九州市)**

8. **三浦俊哉, 園田信成.**

冠動脈分岐部病変に対する3D-OCTガイドステント留置術.

**九州不整脈研究会  
(2015年7月, 北九州市)**

9. **林 克英, 河野律子, 赤松直樹, 大江学治, 高橋正雄, 荻ノ沢泰司, 尾辻 豊, 安部治彦.**

てんかん患者における早期再分極所見の検討.

**第9回九州インターベンションヤングフェローシップ  
(2015年7月, 福岡市)**

10. **三浦俊哉, 園田信成.**

How to treat diffuse long lesion?

**北九州HyperUricemia Conference  
(2015年7月, 北九州市)**

11. **原田 敬.**

Panel discussion : 循環器内科の立場から.

12. **上野啓通.**

腎臓内科の立場から.

**第22回玄海心不全カンファレンス  
(2015年8月, 北九州市)**

13. **楠本三恵.**

門脈肺高血圧の症例.

14. **眞田賢哉.**

慢性心不全の症例.

**MEMORY in FUKUOKA  
(2015年9月, 福岡市)**

15. **園田信成.**

イメージングデバイスからみたResolute Ingegrity.

---

**DCBセミナー in Kyushu  
(2015年9月, 福岡市)**

16. 園田信成.  
Neoatherosclerosisを考える.

**九州腎 Forum 2015  
(2015年9月, 福岡市)**

17. 宮本 哲.  
維持血液透析患者における血中ペントラキシン (CRPおよびPTX3) .

**第28回産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会  
(2015年9月, 北九州市)**

18. 屏 壮史.  
多臓器不全を主体に来院し持続性心室頻拍を合併した動脈硬化性血管疾患の一例.

19. 古野由美.  
教育講演：慢性腎臓病の外来管理.

**大淀川セミナー2015  
(2015年9月, 福岡市)**

20. 穴井美希.  
維持透析患者のステロイド糖尿病に対してシタグリプチンが著効した一例.

21. 宮本 哲.  
IgAN-4U STUDYサブ解析～軽度蛋白尿のIgA腎症患者に対する返答摘出術+ステロイドパルス療法の有効性.

**第14回北九州循環器フェローシップ研究会  
(2015年10月, 福岡市)**

22. 中園和利.  
リオシグアとにて加療中の慢性血栓閉塞性高血圧症 (CTEPH) の一例.

**Scientific exchange meeting in Fukuoka  
(2015年10月, 福岡市)**

23. 園田信成.  
FFRガイド下にDeferした病変の進行をIVUS/OCTにて観察し得た一例.

---

**第2回Physiology Live in FUKUOKA  
(2015年10月, 福岡市)**

24. 園田信成.  
iFR Scout<sup>TM</sup>について.

**第3回Hypertension Forum in Yatsushiro  
(2015年10月, 八代)**

25. 園田信成.  
冠動脈イメージングからみたステント血栓症と抗血小板剤.

**第4回How to overcome adversity  
(2015年11月, 福岡市)**

26. 園田信成.  
Coronary imaging –Up-to date–

**長崎imaging & physiologyカンファレンス  
(2015年11月, 長崎)**

27. 園田信成.  
特別講演:ここが知りたい! IVUS/OCTの有効な活用法.

**第3回整形外科境界領域研究会  
(2015年11月, 北九州市)**

28. 荒木 優, 瀬戸山航史.  
急性肺血栓塞栓症の診断.

**第22回九州血液血管研究会  
(2015年11月, 福岡市)**

29. 津田有輝, 北川めぐみ, 高見浩仁, 佐貫仁宣, 村岡秀崇, 荒木 優, 園田信成, 芹野良太, 尾辻 豊.  
腎動脈狭窄症に対し経皮的腎血管形成術が腎機能や予後に及ぼす影響の検討.

**第7回北九州ER ~CRITICAL CARE CONFERENCE~  
(2015年11月, 福岡市)**

30. 穴井玲央.  
セロトニン症候群の一例.



---

**Fukuoka PAH case conference 2015**  
**(2015年8月, 福岡市)**

31. **大江学治.**

アルコール性肝硬変の治療経過中に門脈肺高血圧症を来たした一例.

**第9回若松循環器・腎臓病カンファレンス**  
**(2015年12月, 北九州市)**

32. **岩垣端礼.**

ACE阻害薬投与後に低Na血症が遷延した高齢男性の一例.

33. **中俣潤一.**

当院における腎臓病教育入院の紹介.

34. **春木伸彦.**

**Q&Aコーナー**：ループ利尿薬の使い分けについて.

**ミニレクチャー**：日常診療に潜む睡眠時無呼吸.

**第29回産業医科大学循環器・腎臓病診連携の会**  
**(2016年2月, 北九州市)**

35. **園田信成.**

教育講演:冠動脈インターベンション治療のUp-to-date.

36. **塚原慧太.**

高齢腹膜透析患者に対し多職種による在宅支援を行い退院可能となった一例.

**第23回玄海心不全カンファレンス**  
**(2016年2月, 北九州市)**

37. **岩瀧麻衣.**

心不全治療により改善したstretched ASD.

**Young PAD Meeting**  
**(2016年2月, 北九州市)**

38. **菅 亮太.**

外傷性血腫を契機として左下肢動脈閉塞を来した一例.

---

**第58回老年医学懇話会  
(2016年2月, 福岡市)**

39. 高橋正雄, 萩ノ沢泰司, 林 克英, 大江学治, 河野律子, 安部治彦, 尾辻 豊.  
外傷性血腫を契機として左下肢動脈閉塞を来した一例.

**第10回九州・沖縄腎カンファレンス  
(2016年3月, 福岡市)**

40. 上野啓通, 穴井美希, 藤本陽子, 古野由美, 芹野良太, 田村雅仁.  
ANCA関連腎炎の経過中にPTH製剤による薬剤性間質性腎炎を発症した1例

**Strategy and Technique 2016 Heart Valve Conference  
(2016年3月, 大阪)**

41. 尾辻 豊.  
左室基部と弁形成.

---

## 14. 受賞

### 1. 宮本 哲

第58回日本腎臓学会学術集会 優秀演題賞 (2015年6月, 名古屋)

### 2. 永田泰史.

第22回黒岩賞 産業医科大学第2内科同門会 (2015年7月, 北九州市)

### 3. 永田泰史.

第80回日本循環器学会学術集会 循環器イメージング賞 優秀賞 (2016年3月, 仙台)

## 15. 紹介記事、インタビュー記事、テレビ出演など

### 1. 尾辻 豊.

高齢者弁膜症治療の選択.  
心臓財団 虚血性心疾患セミナー  
ラジオNIKKEI本社スタジオ 2015年5月

### 2 安部治彦.

不整脈.  
あきらめない医療をめざして  
FM FUKUOKA 2015年11月23日 10:55~11:00

### 3. 尾辻 豊.

医療の疑問にやさしく答える患者塾. 肥満は立派な病気です.  
毎日新聞 朝刊 2016年2月9日

---

## 14. 受賞

### 1. 宮本 哲

第58回日本腎臓学会学術集会 優秀演題賞 (2015年6月, 名古屋)

### 2. 永田泰史.

第22回黒岩賞 産業医科大学第2内科同門会 (2015年7月, 北九州市)

### 3. 永田泰史.

第80回日本循環器学会学術集会 循環器イメージング賞 優秀賞 (2016年3月, 仙台)

## 15. 紹介記事、インタビュー記事、テレビ出演など

### 1. 尾辻 豊.

高齢者弁膜症治療の選択.  
心臓財団 虚血性心疾患セミナー  
ラジオNIKKEI本社スタジオ 2015年5月

### 2 安部治彦.

不整脈.  
あきらめない医療をめざして  
FM FUKUOKA 2015年11月23日 10:55~11:00

### 3. 尾辻 豊.

医療の疑問にやさしく答える患者塾. 肥満は立派な病気です.  
毎日新聞 朝刊 2016年2月9日



## 16. 研究費獲得

1. 研究費の名称：文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究（C）  
研究課題名：失神とてんかんの鑑別診断を容易にする新しい失神診断ツールの作成  
交付年：平成25年～27年度  
研究費総額：5,090,000円  
研究代表者：**安部治彦**
  
2. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 基盤研究（C）  
研究課題名：心房細動の遺伝子治療  
課題番号：25460408  
交付年：平成25年度～平成27年度  
研究費総額：4,030,000円  
代表研究者：**五十嵐友紀**
  
3. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 基盤研究（C）  
研究課題名：冠動脈ステント留置後の新生内膜形成に及ぼす多価不飽和脂肪酸の効果  
課題番号：25504020  
交付年：平成25年度～平成27年度  
研究費総額：5,070,000円  
代表研究者：**荒木 優**
  
4. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 基盤研究（C）  
研究課題名：日本人の人工弁置換術後における抗血小板療法の有効性及び安全性に関する臨床研究  
課題番号：25462153  
交付年：平成25年度～平成29年度  
研究費総額：5,070,000円  
代表研究者：**津田有輝**
  
5. 研究費の名称：一般財団法人 地域医学研究基金 研究助成  
研究課題名：腎動脈狭窄に対し経皮的腎血管形成術が腎機能障害に及ぼす影響の検討  
交付年：平成27年度  
研究費総額：50,000円  
代表研究者：**津田有輝**
  
6. 研究費の名称：産業医学・産業保健重点研究助成  
研究課題名：全国の就労世代人口における心臓突然死発症率とその地域間格差及び経年変化  
交付年：平成27年度  
研究費総額：531,000円  
代表研究者：**萩ノ沢泰司**

- 
7. 研究費の名称：産業医学・産業保健重点研究助成  
研究課題名：心臓カテーテル検査における放射線線量とDNA損傷ならびに解毒システム  
におけるアスコルビン酸の機能解明  
交付年：平成27年度  
研究費総額：601,000円  
代表研究者：**五十嵐友紀**
8. 研究費の名称：厚生労働科学研究 労災疾病臨床研究事業費補助金  
研究課題名：身体疾患を有する患者の治療と就労の両立を支援するための主治医と事業場  
(産業医)の連携方法  
交付年：平成26年度～平成28年度  
研究費総額：60,500,000円  
分担研究者：**安部治彦**
9. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 若手研究 (B)  
研究課題名：心臓リハビリテーション時における酸素吸入の有用性の前向き比較試験  
課題番号：26750212  
交付年：平成26年度～平成29年度  
研究費総額：4,420,000円  
代表研究者：**加来京子**
10. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 基盤研究 (C)  
研究課題名：僧帽弁輪拡大による二次性左室基部収縮低下：弁形成術は左室基部収縮低下を  
改善させる  
課題番号：15K0226  
交付年：平成27年度～平成29年度  
研究費総額：4,810,000円  
代表研究者：**福田祥大**
11. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 基盤研究 (C)  
研究課題名：心臓MRIを用いたフィーチャートラッキングストレイン法による予後予測の検討  
課題番号：15K01346  
交付年：平成27年度～平成29年度  
研究費総額：4,810,000円  
代表研究者：**竹内正明**
12. 研究費の名称：日本学術振興会 科学研究費 基盤研究 (C)  
研究課題名：慢性心不全に対する $\omega$ -3多価不飽和脂肪酸の効果  
課題番号：16K00889  
交付年：平成28年度～平成30年度  
研究費総額：4,550,000円  
代表研究者：**荒木 優**

- 
13. 研究費の名称：2015年バイエル薬品研究助成  
研究課題名：冠動脈中等度狭窄を有する患者における侵襲的、非侵襲的画像診断法による心筋虚血診断に関する研究  
交付年：平成27年度  
研究費総額：500,000円  
代表研究者：園田信成
14. 研究費の名称：2016年MSD研究助成  
研究課題名：急性冠症候群における冠動脈プラーク進展、退縮と血圧変動の関連  
交付年：平成27年度～平成28年度  
研究費総額：400,000円  
代表研究者：園田信成
15. 研究費の名称：2015年MSD研究助成  
研究課題名：心不全患者の両心室ペーシングによる睡眠時無呼吸の改善  
交付年：平成27年度  
研究費総額：500,000円  
代表研究者：荻ノ沢泰司
16. 研究費の名称：2015年バイエル薬品研究助成  
研究課題名：心臓植込みデバイス患者の肩関節可動障害発生に関する研究  
交付年：平成27年度  
研究費総額：400,000円  
代表研究者：荻ノ沢泰司
17. 研究費の名称：2016年度ノバルティスファーマ研究助成  
研究課題名：冠動脈中等度狭窄を有する患者における心筋虚血診断においてCT-FFRは侵襲的FFRの代替となりうるか  
交付年：平成28年度  
研究費総額：500,000円  
代表研究者：園田信成
18. 研究費の名称：2016年度ノバルティスファーマ研究助成  
研究課題名：心臓カテーテル治療中のFloTracセンサを用いた動脈圧心拍出量測定による心不全の原因鑑別と早期発見に関する研究  
交付年：平成28年度  
研究費総額：500,000円  
代表研究者：荻ノ沢泰司